

2024 年度定時総会

2024 年 5 月 10 日(金)

名古屋大学

東山キャンパス

ES 総合館 ES ホール

一般社団法人軽金属学会

一般社団法人軽金属学会

2024 年度定時総会議事次第

1. 開会

2. 議長選出

3. 議事録署名人の確認

4. 議事

第 1 号議案(報告事項)

2023 年度事業報告に関する件 1

第 2 号議案(審議事項)

2023 年度度決算報告に関する件..... 31

第 3 号議案(報告事項)

2024 年度事業計画に関する件..... 43

第 4 号議案(報告事項)

2024 年度収支予算に関する件 49

第 5 号議案(審議事項)

特別維持会員会費変更に関する件..... 53

第 6 号議案(審議事項)

2023 年・2024 年度役員補充選任に関する件..... 54

5. 閉会

【第1号議案】(報告事項)

2023年度(令和5年度)事業報告に関する件 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

I. 事業の状況

2023年5月 COVID-19の感染対策が第3類から第5類へと緩和されたことで、本部、支部の多くの活動が対面およびWeb会議によるハイブリッド開催で行われるようになった。5月開催の144回春期大会(香川大学)、11月開催の145回秋期大会(東京都立大学)もハイブリッド式で実施した。特にポスターセッションは、144回から密を避ける目的でポスター番号を奇数・偶数に2分割して開催した。懇親会も感染症対策を施して対面開催することができ、研究交流や意見交換が活発に行われ、また、145回秋期大会からは、子ども同伴での参加を初めて試み、ダイバーシティに基づく学会の環境づくりと会員増にも取り組んだ。

国際交流事業として、11月10日～11日の145回秋期大会において「ALMA2023」を開催し、韓国、中国、台湾、オーストラリア、日本5か国の代表が参集し、ALMA Meeting および ALMA Forum を行った。ALMA Meeting では MOU が締結され、ALMA Forum ではカーボンニュートラルに向けた軽金属の対応などについて各国2名ずつ計10名の講演があり、質疑も多く活発な議論がなされた。また、9月6日～8日にかけてタイにて「タイセミナー」を開催し、アルミニウム製造技術を中心とした基礎技術講座を実施した。講師8名を派遣しアルミ板、押出、鍛造、表面処理、接合などを講義し、参加者115名と定員を越え、質疑も活発に行われ盛況であった。男女共同参画事業では、8月6日に内閣府が主催する「夏の学校」に参画し、日本金属学会、鉄鋼協会と連携し、中高生を対象とし金属への関心を高めるためプレゼンテーションや実験による実体験を実施した。企画委員会では、生産技術者向けのシンポジウムやセミナーなど交流企画として第128回シンポジウムでは「アルミニウムのアップグレードリサイクル技術」、第129回シンポジウムでは CN 社会に適合するエネルギーに対応するアルミニウムをテーマとして「カーボンニュートラルを実現する水素社会とアルミニウム」を実施した。研究委員会では13テーマの研究部会(うち、生産技術関連テーマが4テーマ)で研究活動を推進した。今年度スタートした先行研究部会では9テーマ(内、生産技術関連6テーマ)について研究部会設立に向けた課題と方針を検討した。

2051年の100周年に向けた各常設委員会の課題、長期アクションプランを検討し、学会の課題、行動指針、ロードマップをまとめた2050年長期ビジョンを策定し、外部公開を準備した。また、軽金属学会の活動範囲(研究範囲)を学術中心から素材・製品に係る生産技術へ拡張するため、総合計画委員会では生産技術WGを設置し、今後取り上げていくべき生産技術分野・課題をまとめた。生産技術に関連して、企画委員会ではシンポジウムを開催し、編集委員会では会誌「軽金属」への生産技術記事掲載を、大会運営委員会では春秋大会での生産技術セッションを設置し、生産技術者の会員入会、学会行事への参加を促した。

会員サービスの一環として、学会ホームページの会員マイページに2023年4月から会誌「軽金属」の会報記事電子版掲載、6月から過去のシンポジウム・セミナーテキスト、研究部会報告書電子版掲載開始の準備を行った。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋講演大会の開催

1)第144回春期大会 新型コロナ感染症対策により、ハイブリッド開催とした。

会期	:2023年5月12-14日	
会場	:サンポート高松・タワー棟6階かがわ国際会議場 ホール棟1階展示場 香川大学 キャンパス 5月13-14日 ハイブリッド開催	
実行委員長	:田中康弘(香川大学)	
定時総会	:2023年5月12日	
研究発表講演	:2023年5月13-14日	147件発表
ポスターセッション	:2023年5月13日	対面2部構成にて開催 82件発表(日本語77件、英語5件)
表彰式	:2023年5月12日	サンポート高松・タワー棟6階かがわ国際会議場
レセプション	:2023年5月12日	ホール棟1階展示場
懇親会	:2023年5月13日	香川大学 生協 ダイニング・ソラミ
機器・カタログ展示	:2023年5月13-14日	4社参加
企業研究会	:2023年5月13-14日	5社参加

2)第145回秋期大会 新型コロナ感染症対策により、ハイブリッド開催とした。

会期	:2023年11月10-12日	
会場	:東京都立大学 南大沢キャンパス ハイブリッド開催	
実行委員長	:北薮幸一(東京都立大学)	
研究発表講演	:2023年11月11-12日	156件発表
ポスターセッション	:2023年11月11日	対面2部構成にて開催 90件発表(日本語84件、英語6件)
表彰式	:2023年11月10日	
懇親会	:2023年11月11日	京王プラザホテル八王子
機器・カタログ展示	:2023年11月11-12日	7社参加
企業研究会	:2023年11月11-12日	8社+1団体

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催年月日	開催場所	参加者数
1	第 128 回シンポジウム「アルミニウムのアップグレードリサイクル技術」	2023 年 5 月 31 日	貸会議室 内海 ハイブリッド開催	80 名
2	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織―入門編(状態図と組織)」第 13 回	2023 年 11 月 21 日	WEB 開催	52 名
3	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	2023 年 11 月 24、 25 日	つま恋リゾート彩の郷	39 名
4	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織―中級編(時効析出)」第 12 回	2023 年 12 月 19 日	WEB 開催	47 名
5	第 129 回シンポジウム「カーボンニュートラルを実現する水素社会とアルミニウム」	2024 年 1 月 19 日	芝浦工業大学豊洲キャンパス ハイブリッド開催	50 名
6	第 130 回シンポジウム「軽量車両構体の信頼性を高めるための材料評価技術～難燃性マグネシウム合金を事例として～」	2024 年 1 月 26 日	貸会議室 内海 ハイブリッド開催	23 名
7	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織―応用編」第 10 回	2024 年 2 月 2 日	WEB 開催	40 名
8	第 131 回シンポジウム「アルミニウム合金同種および異種材料との接合技術最前線」	2024 年 3 月 1 日	名古屋工業大学 ハイブリッド開催	52 名
9	6000 系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会公開セミナー	2024 年 3 月 8 日	ハイブリッド開催	68 名

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2023 & Meeting)

2023 年 11 月 10 日-12 日に東京都立大学南大沢キャンパスにて開催された第 145 回秋期大会会期中にハイブリッド式で開催。Meeting(11 月 10 日)および Forum(11 月 11 日開催)は主要国からの招待者は対面にて参加。Meeting ではオーストラリア、中国、韓国、台湾、日本の参加 5 か国により MOU を締結した。Forum では地球環境やカーボンニュートラルをテーマとし、10 件の招待講演があった。また、11 月 10 日 Meeting 後は日本電子、鉄道総合研究所の見学会を実施した。次の ALMA の開催は、2026 年とした。

2)タイ研修会(タイセミナー)

2023 年 9 月 6 日～8 日第 2 回タイ研修会をタイにて実施。日本からの講師として 8 名が講義した。第 1 回ではアルミニウム展伸材を中心とした講義であったが、今回は、鋳物、ダイカスト、鍛造ならびに接合技術に関する内容も取り入れた講義内容とした。タイでアルミ産業に従事する企業研究者、技術者、大学研究者など合計 115 名が参加した。8 日最終日は Bangkok Can Manufacturing Co.,Ltd(製罐メーカー)、Almet Thai Co.,Ltd.(アルミ押出メーカー)の工場見学を実施した。タイのアルミニウム産業の発展もあり、2 年毎にタイ研修会の開催を計画することで合意した。

2. 産学官の連携

参与会を2回開催。9月12日、昨年度より実施予定であったがCOVID-19 の影響により開催できなかった株式会社IHIの「つなぐラボ」、「IHIグループ横浜ラボ」見学会を実施した。CO₂ 排出を抑制するため、アンモニアをエネルギー源とする技術の紹介および設備の見学とともに、横浜ラボでは、オープンな状況で社内外からの研究者や技術者による意見交換を行うことが紹介された。第2回は12月7日電力中央研究所・横須賀地区を訪問。カーボンニュートラルに向けたエネルギー関連の研究開発状況につき、水素の製造、利活用の取組みなど意見交換した。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催により開催された産学懇談会に参画し、情報交換を行った。2023 年 12 月 15 日には産学懇談会施設見学が「大紀アルミニウム工業所・亀山工場」で開催され、アルミニウム二次地金について、リサイクル材の分別、溶解工程での不純物除去、溶湯製品などの技術について情報交換ならびに議論を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の 2022 年度成果報告 9 件については春期大会での講演、また 2024 年度については 7 件のテーマが選考され、同様に講演大会での参加を推進していく。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与、自動車フード、エンジンシリンダブロックなど大型製品貸与の協力を得た。この他、日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」の見直し作成に基づき軽金属学会「軽金属ロードマップ」のアルミニウム関連を掲載すべく協力していく。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会については、日本マグネシウム協会メンバーにも参画いただき研究連携を実施。日本マグネシウム協会の会議室を借用し、対面およびオンラインによるハイブリッド式で部会を開催し連携強化を図る。第 144 回春期大会では「グリーンイノベーション実現のためのダイカスト用難燃性マグネシウム合金の開発」のテーマセッションを開催した。

溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春期・秋期講演大会ポスター発表に軽金属溶接協会からの表彰を実施し、溶接関係研究発表の 9 名(144 回春期大会 4 名、145 回秋期大会 5 名)が表彰された。また、異種金属接合と組織形成メカニ

ズムによる接合信頼性検討先行研究部会と連携するため、異材接合委員会への参画、自動車用アルミ接合委員会との情報交換なども計画的に実施する。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本チタン学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などを行う。日本工学会では元事務局長の石川和徳氏が日本工学会功労賞に選考された。3 年ぶりに対面開催された「中高生夏の学校 2023」において、日本金属学会、日本鉄鋼協会と共同で「実験コーナー」などでアルミなど金属材料の魅力を PR した。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 73 巻 4-12 号、第 74 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 73 巻 5 号は「アルミニウムの諸特性に及ぼす水素の作用」特集号、第 73 巻 12 号は「アルミニウム合金の高強度化」特集号として刊行した。第 73 巻 9 号は「アルミニウムによる脱炭素社会への取組み 2」ミニ特集として、毎年 9 号に刊行する計画としている。掲載内容の分類は以下のとおりである。2030 年以降、将来の会誌電子化に向けた検討を開始した。

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	5	連載講座	1	はぐくむ	6
研究論文	57	随想	6	研究部会紹介	3
速報論文	2	LM コラム	9	私の一枚	1
解説	17	研究室／研究所紹介	0	学会便り	17
LM レビュー	1	維持会員紹介	2	支部便り	13
年間レビュー	12	国際会議便り	4	ダイバーシティリレーエッセイ	8
座談会	1	支部特集	16	掲載総数	181

2. 研究部会報告書の発行

2022 年度終了した 5 研究部会のうち 2 研究部会の報告書を発行した。

No.	名 称	発行 年月日
84	汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会 「アルミニウム合金溶湯による耐火物の損傷プロセスとその評価」	2023 年 12 月 31 日
85	高強度アルミニウム合金研究部会 「アルミニウム合金の高強度化」	2024 年 3 月 31 日

3. その他刊行物

名 称	発行 年月日
第 144 回春期大会講演概要集(冊子体、電子版)	2023 年 4 月 12 日
第 128 回シンポジウム「アルミニウムのアップグレードリサイクル技術」	2023 年 5 月 26 日
第 145 回秋期大会講演概要集(冊子体、電子版)	2023 年 10 月 10 日
第 129 回シンポジウム「カーボンニュートラルを実現する水素社会とアルミニウム」	2024 年 1 月 19 日
第 130 回シンポジウム「軽量車両構体の信頼性を高めるための材料評価技術～難燃性マグネシウム合金を事例として～」	2024 年 1 月 26 日
第 131 回シンポジウム「アルミニウム合金同種および異種材料との接合技術最前線」	2024 年 3 月 1 日

[4]研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究部会は新設の「アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会」、「アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会」、「中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会」の 3 テーマを加えた 13 部会が活発な研究事業を実施した。研究委員会はハイブリッド式で開催し、各研究部会活動報告を行い、各研究部会の研究成果につき委員会で活発な討議がなされた。春期大会で LPSO/MFS 構造材料研究部会、汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会、アルミニウム接着接合研究部会、秋期大会では 7000 系アルミニウム合金の時効析出挙動研究部会が企画したテーマセッションを実施した。また、2022 年度に 1 年延長した 6 研究部会は、「アルミニウム接着接合研究部会」、「加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会」の 2 テーマは完了とし、他の 4 テーマは後継部会として「押出加工中の溶着制御技術検討研究部会」、「アルミニウム合金中の水素評価研究部会」、「マグネシウムのためのマテリアル DX 研究部会」、「キンク研究部会」を新設した。先行研究部会 9 テーマの内、3 テーマは「アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会」、「アルミニウム溶解工程における Mg、Fe 低減技術研究部会」、「アルミニウム屑の合金判別研究部会」として新設研究部会として立ち上げることとした。なお他の先行研究部会 6 テーマについては 1 年延長し、新設研究部会としての立ち上げを目指すべく、さらに検討を進めることとした。2023 年度の 13 研究部会および 9 先行研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	2023 年度研究成果概要
1	押出材組織に起因する欠陥研究部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【終了】	組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。	開催3回(2023年7月28日、12月1日、2024年3月)。 A6063 押出材の組織に及ぼすブリッジダイスの影響を調査。 (1)研究成果報告 ①組織分析には FlexSEM、FE-SEM、EBSD を用いて組織観察を進めながら引張試験、ビッカース硬さなどの機械的特性も調査を進めた。 ②FEM 解析では組織予測のモジュールを追加してその結果の検証を始めた。 (2)後継部会設立に向けた課題、方針を決定した。
2	アルミニウム中の水素と材料物性研究部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【終了】	アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやブリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。	開催3回(2023年8月8日、12月18日、2024年3月18日)。 第146回春期大会テーマセッション開催計画。 (1)外部講師の講演による情報提供をいただく ・火力分野における物質循環(8月)、 ・Mg 合金の水素脆化研究に対する電気化学的アプローチ ・電子科学製 TDS 装置のご紹介 (2)内部講師の講演による情報交換 ・2000 系合金の水素脆化に関する講演
3	アルミニウム接着接合研究部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【終了】	アルミニウム材の接着特性、とりわけ長期信頼性が確保できることを念頭に置き、①アルミニウム素材の表面処理と接着現場での前処理による表面性状と接着メカニズムの解析、②劣化を模擬する試験条件の検討と標準化、③耐久性劣化メカニズムの解析、④劣化予測技術への足がかり、等を検討する。	開催5回(2023年4月25日、6月21日、9月29日、12月4日、2024年2月19日)。第144回春期大会テーマセッション開催計画・実施。部会成果報告書の作成を計画。 ①アルミニウム合金の接着接合引張せん断強度における補強板の効果を調査し、変形量との影響を考察。 ②界面破壊可能な接着剤によるアルミニウム合金の表面物性とせん断強度の関係を調査し、濡れ・粗さの観点での考察。 ③アルミニウム接着接合部の静電容量と強度に及ぼす表面処理および吸水の影響を調査し、静電容量測定の有効性を確認。 ④温水環境下でのアルミニウム合金の接着耐久性に及ぼす各種因子の影響を調査。成果報告書の作成を推進。
4	汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【終了】	汎用性の高い合金(資源偏在性の少ない安価な、かつリサイクルが容易な合金)を対象として、その性能・使いやすさを継続的に改善していく。構造部材としての信頼性(クリープ特性、耐食性、疲労特性等)や、評価手法の確立などにも焦点を当てる。	開催5回(2023年4月28日、9月1日、11月2日、12月1日、2024年3月1日)。 ①マグネシウム合金展伸材の軸力クリープ試験の評価に関する議論 ②マグネシウム合金展伸材の応力腐食特性に関する議論 ③部会成果報告書作成に関する議論 ④次期研究部会に関する議論(マテリアル DX を活用した研究展開に関する議論)
5	加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【完了】	我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。加工中の動的組織変化および最終組織の機械的特性に影響を及ぼす一要因に挙げられる、高温変形過程における第二相粒子などの動的析出挙動についてのデータベース構築および動的観察技術の可能性を模索する。	開催4回(2023年6月12日、10月25日、2024年1月26日、3月27日)。本部会は5年間で通算回数19回開催し、3月27日をもって部会を完了し、成果報告書を作成。 ①動的/静的析出挙動のモデル化推進 ②結晶粒成長挙動のモデル化推進 ③熱間加工シミュレーションパラメータの抽出と同定 ④組織形成を意識した冷間/熱間加工シミュレーションの実施 ⑤基礎知見の応用展開 を中心に実施し、活発な意見交換を実施し成果につなげた。 第146回春期大会テーマセッションを企画し、実施予定。 2025年3月特集号『軽金属の加工熱処理工程における組織形成』を企画・原稿募集中。
6	LPSO/MFS 構造材料研究部会 【開催期間】 2019年4月-2024年3月末 (1年延長)【終了】	ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みる	開催1回(2023年11月10日)。 テーマ「キンク強化はどこまでわかったのか?」として、日本金属学会「キンク研究会」、高性能 Mg 合金創成加工研究会、熊本大学 MRC&ILM セミナー協賛で、東京工大・大岡山キャンパスで実施。第一部として4件の講演と、第二部は総合討論を実施。 【講演】 ・キンク強化 vs ホールペッチ強化:高機能界面としての余剰効果 ・LPSO 型マグネシウム合金におけるキンク強化理論の残課題

		とともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。	・微分幾何学に基づくキンク変形と回位の理論解析の現在地 ・キンク界面におけるすべり変形の阻害機構に関する幾何学モデル 上記講演内容とキンク強化の重要性を議論し、後継部会を設立。
7	マテリアルズ・インフォマティクス研究部会 【開催期間】 2020年4月-2024年3月末 (1年延長)	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。尚、本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算を行う。	開催 3 回(2023 年 5 月 10 日、10 月 19 日、2024 年 1 月 17 日)。 ①メインサーバーをクラウドサーバーから大学内サーバーに移行することにより作業効率を向上。 ②Raspberry Pi 等の IoT 機器にインストールして測定器の制御および計測を行うクライアントサイドアプリ(MaterInfoDevs)の開発を行った。また、これに第一原理計算および熱伝導計算等の計算ジョブを実行できる機能を追加した。これによりサーバーサイドアプリ(MaterInfo)から計測制御および計算ジョブの投入ができるようになった。 ③ADC12 の冷却曲線(プロセス)、組織画像(材料組織)および引張特性(材料特性)を MaterInfo によって特徴量抽出した後、機械学習(主成分分析、分類、回帰)を行った。
8	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会 【開催期間】 2021年4月-2025年3月末	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うこととともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を行うことを目的とする。	2023 年度は 4 回(2023 年 4 月 12 日、9 月 12 日、12 月 18 日、2024 年 3 月 6 日)。 (1)共通試料による評価 ・9 種の押出材を製造。A6082 ベースで Si、Fe、Cu を規格範囲外まで添加し、ひずみ速度感受性の調査を進めた。 ・デジタル画像相関法による応力-ひずみ曲線の評価実施。 ⇒シミュレーションと実験との相関比較 ・データベース化の推進: データベースの形式を決定し、データの共有化を目指す。 (2)基調講演 金属材料の組織解析、引張試験データのフォーマットに関する提案、ハイドロショットについて、高速引張試験の技術紹介。
9	6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会 【開催期間】 2021年4月-2025年3月末	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やB”相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。	開催 4 回(2023 年 5 月 15 日、9 月 27 日、2024 年 1 月 9 日、3 月 8 日)。3 月 8 日は公開セミナーを開催し、Dr.Calin (SINTEF) による講演。 (1)話題提供: 10 件によりナノクラスタの考え方を議論 ①STEM/3DAP/DFT による Al-Mg-Si 合金溶質クラスタの構造解、②6000 系アルミニウム合金の粒界近傍における局所力学挙動、③XAFS 測定を用いた Al-Mg-Si 合金におけるクラスタリング挙動の観察、④時効析出の時間制御技術(予加工、予備時効による時効硬化挙動促進の可能性)について、⑤陽電子消滅実験と第一原理計算を用いた 6000 系アルミニウム合金の研究、⑥Al-Mg-Si 合金の機械的性質に及ぼす Fe 量の影響、⑦Effects of Nanocluster Formation on Multi-Step Aging Behavior in Al-Mg-Si Alloys、⑧Al-Mg-Si 合金における等温析出挙動および時効生成物と転位との相互作用⑨TEM 内その場引張試験によるアルミニウム合金の運動転位のすべり挙動解析、⑩Precipitation morphology and tensile properties of Al-0.62Mg-0.32Si alloy aged at low temperature
10	7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会 【開催期間】 2022年4月-2026年3月末	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動について、多角的な解析を行い、①時効初期の微視組織形成メカニズムの解明、②焼き入れ時の冷却速度と強度、組織、耐SCC性との関係解明、7000系ベークハードプロセスの可能性を見出す。	開催 3 回(2023 年 5 月 31 日、11 月 9 日、2024 年 3 月 19 日)。第 145 回秋期大会でテーマセッションを開催。 (1)話題提供: 4 件 ①Al-Zn-Mg-Cu 合金の粒界析出と応力腐食割れ・水素脆化の関係、②アルミニウム合金の粒界破壊と化学結合、③6000 系合金の時効析出に関する話題提供、④Al-Zn-Mg 合金の微細組織形成に及ぼす焼き入れ速度の影響 (2)共通試料による進捗 ・時効挙動と組織に及ぼす炉冷条件及び室温予備時効の影響 ・炉冷材および水冷材の耐 SCC 試験について ・Al-Zn-Mg 合金の空孔-溶質クラスタに関する理論計算 ・拡張ヒュッケル法による Al 合金の計算 ・X 線小角散乱測定法による微視組織の解析 ・押出材の試作と評価法の検討
11	中・高温域におけるアルミ合金の変	アルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式の構	開催 2 回(2023 年 10 月 20 日、12 月)。 各大学におけるテーマについて、基礎検討。実施内容は、

	形解析の高精度化に関する研究部会 【開催期間】 2023年4月-2027年3月末	築するため、圧盤一試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの問題が解決できていない。これらの影響をさらに軽減する新たな試験方法の開発もしくは解析における補正の方法について、詳細に検討する。	(1)試験方法の詳細議論、(2)試験装置の設計及び施策。 話題提供:①単純せん断試験による変形抵抗の取得(課題・肌限界、剛体部による捩れ)(香川大学・吉村先生)、②6000系アルミニウム合金板の温間変形・時効硬化特性評価とその材料モデル試験(中部大学・濱崎先生)、③中・高温域におけるアルミ合金の変形速度の高精度解析(富山県立大・伊藤先生)、④アルミニウム立方体型試験片の単軸圧縮による集合組織変化、
12	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会 【開催期間】 2023年4月-2027年3月末	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術の現状と将来期待される姿について議論し、最終的には、デジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化に繋げる。	開催4回(2023年7月18日、9月15日、12月15日、2024年3月22日)。 (1)第一回アウトプットイメージのフリーディスカッション、マクロスケジュールの計画と確認 (2)計測技術、データ活用についての関連資料の内容と交信箇所の有無確認。センサー活用の代表事例紹介、前身研究部会の成果報告書作成計画 (3)各軽圧メーカの圧延設備関連整理(公開可能データのみ) (4)2024年度異動のため部会長交代岡島部会長⇒渡部氏。
13	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会 【開催期間】 2023年4月-2027年3月末	アルミニウム溶湯と接する耐火物の特性は、炉の性能・寿命のみならず、溶湯品質にも影響を及ぼす。本研究部会では、耐火物劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積し、溶湯品質の向上および耐火物の開発に繋がる知見を得る。	開催2回(2023年4月26日、9月11日)。 ①アルミナ-シリカ系耐火物のCa成分による劣化、②耐火物劣化因子を考慮した新しい耐火物の検討、③溶湯流動による耐火物の溶損評価、④耐火物(アルミナ質以外)のアルミニウム溶湯による劣化挙動につき活動を推進する計画とした。今年度は、溶湯流動による溶損評価として、誘導炉を用いた耐火物浸漬試験計画、Al-5%Mg合金、アルミナ-シリカ計耐火物を用いて誘導炉にて溶湯を溶解・保持して耐火物の浸漬装置(回転する)を浸漬させて耐火物の損傷評価を行った。

【先行研究部会】

	先行研究部会名	課題と検討概要	活動実績
1	サーマルマネジメント材料技術先行研究部会	生産技術系部会として、熱エネルギーに関わるさまざまな問題を取り扱うサーマルマネジメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムをはじめとする軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化することを目的とし、部会立ち上げに向けた具体的なプランニングを行う。また、研究や開発に限定せず、幅広い技術的課題に取り組んだ。	1年延長
2	アルミニウム屑の固相選別技術先行研究部会	アルミニウムスクラップ利用における問題は、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であり、それを抑制するためにはスクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。本部会では、スクラップ及び選別機の情報を整理し、固相選別における課題を明確にし、適切な選別方法の選定基準や新たな選別技術の基礎につなげるための検討を進めた。	4回開催 2023年7/13、 9/11、10/25、 12/4 研究部会新設
3	次世代アルミニウム溶解技術先行研究部会	アルミニウムの溶解時の燃料として水素やアンモニア、電気等が提案されているがそれらを用いた時の被溶解材や炉体への影響、その他の導入においての課題などが明確とは言えない。非化石燃料の利用推進は、業界全体で取り組むべき課題のため、各溶解方法導入の基礎とすべく、情報を精査し課題を明確にすることを目的に活動を行った。	3回開催 2023年 11/22、12/12 2024年3/8 1年延長
4	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金先行研究部会	CN社会を実現するため、H ₂ 利用技術の開発が進められている。アルミニウム合金は、優れた低温での機械的特性、耐水素脆化特性を有するため、H ₂ 貯蔵用材料として使用されているが、使用実績のある合金は少なく、また特に高圧下での使用では認められている合金は限定されている。そこで、さまざまな用途における水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それらを使用する上で必要な評価手法等について検討した。	2回開催 2023年 7/25、11/2 関連シンポ開催 1年延長
5	アルミニウム(合金)の不純物制御先行研究部会	アルミニウム合金のリサイクル材活用において、アルミニウム合金中の不純物元素の影響の低減が最重要課題である。アルミのリサイクル研究に関する過去の情報を整理するとともに、「アルミニウム(合金)の不純物制御」に向けて、アルミリサイクルの検討対象製品と、増加が考えられる不純物元素を整理し、展伸材および鋳物・ダイカストにおける課題を検討した。	3回開催 2023年 6/21、10/3、 11/30 研究部会新設
6	溶解工程における不純物低減技術先行研究部会	アルミニウム市場屑を使って再生する際、様々な不純物元素が展開の足かせとなっている。結晶分別や真空蒸留などの専用の設備を使う以外に、製造現場の溶解技術、溶湯処理の範囲で、不純物元素をある程度低減することが可能と思われる。そこで、生産技術的に微量不純物を低減させることが可能な手法を調査、検討する。これにより実用化に向けての課題を検討した。	5回開催 2023年 7/4、7/31、10/2、 11/2、12/8 研究部会新設
7	アルミニウム産業	アルミニウム産業における工学および経済学の両方に跨る課題の計量が遅れてい	3回開催

	に関する工学的かつ経済学的な計量計算先行研究部会	る。将来の脱炭素社会の構築に向けて、アルミニウムの軽量性、リサイクル性、伝導性等を訴求していくうえで、工学的かつ経済学的に検証されたアルミニウムの特質に関する数値の確立は不可欠である。よって、アルミニウム産業において計量が必要とされる分野を選定し、計量の方法論の確立を目指す	2023 年 5/25、10/31、2024年3/25 1年延長
8	異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討先行研究部会	実用構造体を考慮した異種金属接合に関して、接合信頼性を確立するためには、接合界面組織及び特性の相関を系統的に調査し、組織形成メカニズムを明らかにする必要がある。2023年度は、対象とする異種金属接合の材料組み合わせの選定、接手法、評価方法などについて協議した。今後、検討すべき接手法や信頼性確立のための評価手法について協議・選定し、研究部会新設を目指す。	3回開催 2023年7/13、9/6、11/24 1年延長
9	アルミニウム表面処理廃液課題検討先行研究部会	アルミニウムの表面処理ラインでは酸、アルカリによるエッチングが行われており、そこで溶解したアルミニウムは水酸化物などのスラッジとなり、環境問題となるとともに処理に費用がかかっている。その他、陽極酸化処理、化成処理、塗装などでも廃液の処理が課題となっている。そこで、これらの廃液を低コストで無害化さらに可能な原料としての再生化を目指す。	1年延長

[5]研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1)を2023年5月開催の第144回春期大会にて表彰を行った。(2)～(5)および(7)2)を2023年11月開催の第145回秋期大会にて表彰を行った。(6)は2024年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。

(1)2023年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

熊井真次選考委員長のもと、3つの賞について審議の結果、学会賞は応募2名から1名を、功労賞は応募4名から3名を、功績賞は応募1名をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は2023年5月開催の第144回春期大会にて行われた。

1)第26回軽金属学会賞	宇都宮大学 教授	高山 善匡 君
2)第25回軽金属学会功労賞	新居浜工業高等専門学校 名誉教授	高橋 知司 君
	北海道立総合研究機構	高橋 英徳 君
	株式会社 UACJ	戸次洋一郎 君
3)第21回軽金属功績賞	宇都宮大学 准教授	山本篤史郎 君

(2)2023年度軽金属論文賞・論文新人賞

廣澤涉一推薦委員長のもとで論文賞対象論文59編の内11編、新人賞対象論文15編(14名)の内7編の論文を推薦し、奥田選考委員長のもとで3編(10名)の論文賞、4名の新人賞を選考した。

1)論文賞

①「塗装焼付温度における3104アルミニウム合金冷間圧延板の微細組織変化と塗装焼付軟化性に及ぼす固溶原子の役割」
第72巻10号(2022)585-592掲載

株式会社 UACJ	工藤 智行 君
超々ジュラルミン研究所	吉田 英雄 君
株式会社 UACJ	田中 宏樹 君

②「XAFS測定を用いたAl-Mg-Si合金における二段時効の負の効果に及ぼすSnの影響の解明」

第72巻10号(2022)593-599掲載

兵庫県立大学大学院	田中 芹奈 君
兵庫県立大学	足立 大樹 君

③「Suppression of Hydrogen Embrittlement due to Local Partitioning of Hydrogen to Dispersed Intermetallic Compound Particles in Al-Zn-Mg-Cu Alloys」

第72巻5号(2022)198-205掲載

九州大学工学研究院	Hiro Fujihara 君
岩手大学理工学部	Kazuyuki Shimizu 君
九州大学工学研究院	Hiroyuki Toda 君
公益財団法人高輝度光科学研究センター	Akihisa Takeuchi 君
公益財団法人高輝度光科学研究センター	Masayuki Uesugi 君

2)論文新人賞

①「高純度アルミニウムおよびA6061アルミニウム合金におけるポアの成長挙動と水素脱離挙動」

第73巻5号(2023)212-217掲載

岩手大学大学院	八重樫 祥之 君
---------	----------

②「Suppression of Hydrogen Embrittlement due to Local Partitioning of Hydrogen to Dispersed Intermetallic Compound Particles in Al-Zn-Mg-Cu Alloys」

Materials Transactions, Vol. 63, No.10(2022)pp.1406 to 1415 掲載

九州大学工学研究院	Hiro Fujihara 君
-----------	-----------------

③「Influence of Initial Extruded Microstructures of Al-4.4Zn-1.4Mg Alloy Flat Bar on VDA Bendability」

Materials Transactions、Vol.64、No.2(2023)、421-428 掲載

長岡技術科学大学

Amalina Aina Binti Kaharudin 君

④「ろう付熱処理した Al-Mn-Si-Cu 合金の粒界腐食感受性に及ぼす Mg の影響および Ti による粒界腐食抑制効果」

第 73 巻 6 号(2023) 266-272 掲載

MA アルミニウム株式会社

中村 優希 君

(3)第 58 回小山田記念賞

佐々木元選考委員長のもと、応募 2 件について選考委員会によるプレゼンテーション審査の結果、当該技術 1 件を選考した。

「アルミニウム製内面螺旋溝付伝熱管の製造方法(TT 法®)の開発と実用化」

MA EXTRUSION INDIA PVT. LTD.

中浦 祐典 君

MA アルミニウム株式会社

福増 秀彰 君

〃

波照間 勇樹 君

〃

中本 将之 君

(4)第 46 回高橋記念賞

松田健二選考委員長のもと、各支部からの推薦 4 件について選考委員による書面審査の結果、4 名を選考した。

YKK AP 株式会社

秋田 郁夫 君

株式会社 UACJ

中川 和之 君

日軽松尾株式会社

野崎 進一 君

株式会社アーレスティ

八木 浩一 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

中沢 靖選考委員長のもと、3 つの賞について審議し、躍進賞は応募 6 名から 3 名を、奨励賞は応募 2 名から 2 名を、女性未来賞は応募 3 名から 1 名を選考した。

1)第 22 回軽金属躍進賞 MA アルミニウム株式会社

吉野 路英 君

物質・材料研究機構

佐々木泰祐 君

芝浦工業大学

芹澤 愛 君

2)第 41 回軽金属奨励賞 熊本大学

井上 晋一 君

株式会社 UACJ

皆川 晃広 君

3)第 14 回軽金属女性未来賞 名古屋工業大学

徳永 透子 君

(6)2023 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 28 名について、総務委員会による二次選考の結果、28 名全員を選考した。

所 属	氏 名	所 属	氏 名
北海道大学大学院	谷藤 晶 君	富山県立大学大学院	高島 充希 君
岩手大学大学院	八重樫祥之君	富山大学大学院	齊藤 大輝 君
千葉大学大学院	永田 涼太 君	富山大学大学院	Vu Ngoc Hai 君
千葉大学大学院	半田 優斗 君	大同大学大学院	西舘 光紀 君
日本大学大学院	幸田 一希 君	名古屋大学大学院	中谷 英人 君
日本大学大学院	田中 拓海 君	名古屋大学大学院	長子 明弘 君
群馬大学大学院	大久保終二 君	兵庫県立大学大学院	高原 太樹 君
横浜国立大学大学院	片岡 隆一 君	兵庫県立大学大学院	藤本 隆誠 君
東京電機大学大学院	伊藤 優希 君	大阪大学大学院	坂田 貴洋 君
東京電機大学大学院	黒龍 星七 君	関西大学大学院	嵯峨山 葵 君
群馬大学大学院	鈴木 巽 君	広島工業大学大学院	川上 滉太 君
群馬大学大学院	高木 樹 君	九州大学大学院	比嘉 良太 君
茨城大学大学院	湯原 叡 君	九州大学大学院	矢野 伶 君
富山大学大学院	浅井 奨之 君	熊本大学大学院	吉田 彩巳 君

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、2023 年度は以下の通り春期大会で 14 名、秋期大会で 19 名を表彰した。このうち、第 135 回秋期大会より新設した優秀英語ポスター発表賞は春期および秋期大会で各 1 名を表彰した。

1)第 144 回春期大会

題 目	所 属	氏 名
細孔径が連続的に変調した陽極酸化ポーラスアルミナの形成と濡れ性評価	東京都立大学(M1)	傍士 陽太 君
レーザ加熱による A2024 アルミニウム合金の表面溶体化処理と表面時効硬化	阿南高専(専攻科)	山本 武海 君
チタン圧延材における活動すべり系に対する結晶粒径の影響	熊本大学(B4)	廣岡 巧真 君
Mg-Co-Cu-Y 合金における高温度域での LPSO 相安定性	千葉大学(M1)	半田 優斗 君
Mg-In 系合金の組織観察と室温加工特性	千葉大学(M1)	永田 涼太 君
MFS 単相 Mg-Zn-Y 系合金の CANaP 析出制御とキンク強化	熊本大学(B4)	土山 廉平 君
バイポーラ電解によるアルミニウムアノード酸化皮膜の電解着色における実効電圧	工学院大学(B4)	稲川 和希 君
MFS 単相 Mg-0.4Zn-1.0Y 合金の機械的特性に及ぼす動的・静的再結晶の影響	熊本大学(M1)	吉田 彩巳 君
2 段時効処理を施した Al-Mg-Si 合金の HRTEM 観察	富山大学(M1)	辻口 隼人 君
Al-Mg-Si 合金中のナノクラスタの形成に及ぼす転位密度および時効温度の影響	芝浦工業大学(B4)	高木 颯 君
時効硬化型アルミニウム合金におけるナノクラスタおよび GP ゾーンの形成挙動の原子論的解析	芝浦工業大学(B4)	東海林瑞希 君
予備時効を施した Al-Mg-Si 合金線材におけるミクロ組織と機械的性質の関係	芝浦工業大学(B4)	赤谷優太郎 君
水蒸気プロセスによる A6061 アルミニウム合金上への耐食性皮膜の形成が疲労寿命に与える影響	芝浦工業大学(B4)	朝田有希子 君
Pore morphology of aluminum alloy foam changing with fabrication conditions of semi-solid route	早稲田大学(D2)	高松 聖美 君

2)第 145 回秋期大会

題 目	所 属	氏 名
Al-3.9Cu-1.5Mg 合金の析出強化機構のその場 SAXS 測定を用いた詳細解析	北海道大学(M2)	福田 深 君
巨大ひずみ加工を施した工業用純アルミニウムのバウシナゲ効果評価	東京工業高専(B5)	萬中 優悟 君
ラボラトリ X 線小角散乱による Al-Mg-Si 合金の β'' 形成過程のその場観察	北海道大学(B4)	田村 涼太 君
レーザ粉末末溶融結合法で作製された Al-Fe 合金積層造形体の引張特性の異方性に及ぼす第三元素添加の影響	名古屋大学(M2)	宮脇 孝暢 君
Mg-Al-Zn-Ca 系合金の半凝固鍛造と冷間塑性加工性	群馬大学(M2)	大久保柊二 君
Al-3%Si 合金双ロール鋳造板の表面・断面組織に及ぼすノズル先端形状の影響	東京電機大学(M2)	黒龍 星七 君
塩化ナトリウム/グリコール溶液を用いたマグネシウムおよびその合金の電解研磨技術の開発	北海道大学(M1)	富田 駿介 君
異なる塑性加工に供した AZ31B マグネシウム合金の組織進展に熱処理が及ぼす影響	同志社大学(M2)	吉澄 大雅 君
室温多軸鍛造と熱処理を組み合わせた Mg-9mass%Al-1mass%Ca 合金のミクロ組織と強度	富山県立大学(M2)	三枝 正和 君
Ti-Fe ミルフィーユ材料の開発、力学特性評価	名古屋工業大学(M1)	米村 拓哉 君
微量遷移金属元素を添加した Class I 型 Al-Mg 固溶体合金の熱間延性に及ぼす第 2 相粒子の影響	富山県立大学(M2)	高島 充希 君
Al-Zn-Mg 合金上への蒸気コーティング法を用いた耐食性を有する層状復水酸化物含有皮膜の作製と評価	芝浦工業大学(M1)	古殿 幸祐 君
一方向凝固実験による Al-Ti-B 系微細化剤を添加したアルミニウム合金の柱状晶・等軸晶遷移の検討	名古屋大学(M1)	杉野 龍 君
マルチステップ陽極酸化プロセスを用いた基板上へのアルミナマスクの形成と機能化	東京都立大学(院)	山田 彩妃 君
縦型双ロールキャストによる低速高圧化でのアルミニウム合金 A7075 の薄板連続鋳造	群馬大学(M1)	上野 颯 君
グラフェン被覆アルミニウム焼結体の引張特性と微細組織	宇都宮大学(M2)	坂本 峻世 君
純マグネシウムの熱伝導率に及ぼす押出加工の影響	熊本大学(M1)	大崎 侃斗 君
2618 アルミニウム合金における添加元素が時効硬化に及ぼす影響	長岡技術科学大学(M1)	壽 龍治 君
Al-Cu-Mg 系合金冷間圧延材の引張変形挙動に及ぼす時効時間の影響	茨城大学(D2)	石井 裕樹 君

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条1項第6号)

1. 人材育成

本部において、昨年同様、大学オープンキャンパスなどへの軽金属製品の供与・貸与事業を実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回も特別維持会委員および維持会員企業、日本アルミニウム協会の協力により、10校に製品を提供し、各校の開催状況については報告記事「はぐむ」を会誌、HPに掲載した。男女共同参画委員会では男女共同参画学協会連絡会が後援し、8月5日～7日に開催された「女子中高生夏の学校2023～科学・技術・人との出会い～」に日本金属学会および鉄鋼協会との共同で参加し、全国の女子中高生に対して金属および軽金属に興味を持っていただくため軽金属学会ポスター展示、缶製造サンプル、金属材料重量比較サンプルなどの展示説明のほか、「実験」「実習」などを行った。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

(1)若手の会

第44回会合:第144回春期大会(5月14日(日))にハイブリッド式で開催した。大学2名、学生9名、企業18名の合計29名が参加。日本軽金属(株)・繁光氏による話題提供があり、活発な意見交換が行われた。

第25回若手育成のための合同会合:第144回春期大会(5月12日(金))に開催した。大学1名、学生3名、企業5名、の合計9名が参加。

第1回若手の会見学会:第145回秋期大会(11月10日(金))午前10時から、日野自動車21世紀センター・日野オートプラザを見学。大学3名、学生8名、企業4名、子供1名の計16名が参加。自動車産業の歩み、安全装置シミュレータ、自動車の展示などを見学。

第45回会合:第145回秋期大会(11月12日(日))にハイブリッド開催した。大学2名、学生9名、企業14名、子供1名の合計26名参加。東洋アルミニウム(株)・石神健太氏より「社会人ドクターの実際」をテーマに講演いただき、活発な質疑がなされた。

第26回若手育成のための合同会合:第145回秋期大会(11月10日(金))に開催し、合計11名が参加。

(2)女性会員の会

第34回会合:第144回春期大会(5月13日(土))にハイブリッド式にて開催した。現地参加20名、オンライン参加6名の合計26名参加(女性19名、男性6名、うち学生3名、中国からの参加1名)。講演大会未登録者も参加可能とした。

第25回託児室設置:第144回春期大会はハイブリッド開催のため、現地参加者には5月12日かがわ国際会議場内、13日～14日は香川大学幸町キャンパス内とし、オンライン参加者には臨時の託児利用が生じた場合には一人当たり1時間最大1000円とし、上限2万円(ただし、二人目以降は半額)の補助を設定。

第35回会合:第145回秋期大会(11月11日(土))にハイブリッド開催した。参加者28名(女性19名、男性7名、子供2名)。現地参加は24名。現地飛び入り参加あり。前回同様、講演大会参加未登録者も参加可とした。

第26回託児室設置:第145回秋期大会はハイブリッド開催とし、11月11日は都立大KIDを利用、11月12日は学内施設を利用(和室)しアルファコーポレーションに委託。利用者は11日3名(未就学児)、12日4名(未就学児3名、小学生1名)。

第1回懇親会子供同伴:145回秋期大会懇親会(11月11日(土))より、会員の子供を同伴して懇親会参加を試行した。

(3)男女共同参画委員会

第8回男女共同セッション:第144回春期大会第(5月13日(土))にハイブリッド開催した。パネルディスカッション「働き方改革その後～子育て編～」を開催。パネラーとして黒崎友仁氏(UACJ)、成田麻未氏(名古屋工業大学)、仲井正昭氏(近畿大学)、久澤大夢氏(徳島大学)を招き、テーマ1・パートナー他との協力、テーマ2・制度の活用、テーマ3・キャリア形成と子育てへの不安について議論した。現地参加者約40名、オンライン参加約20名と合計60名以上の参加者となり盛況であった。

第9回男女共同セッション:第145回秋期大会(11月11日(土))にハイブリッド開催し、「若手世代のキャリア選択と悩み」と題して、キャリアの多様性や若手の活躍推進について考える場とし、30歳以下の若手研究者、学生をパネラーとして、キャリアの選択の現状と悩みについて意見交換した。パネラーとして、長岡技術科学大学のAmarina Aina Binti Kaharudin氏、東京工業大学の長島涼太氏、北海道大学の福田 深氏を招いた。参加者は現地およびオンラインを合わせ45名。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援するため各支部では中堅企業支援セミナーなどを開催した。北陸支部では一般社団法人日本アルミニウム協会 森山氏より「アルミニウム資源循環を通じた脱炭素社会の実現について」と題し、日本のアルミニウムリサイクルの現状と課題、アルミニウムVISION2050を紹介した。住友商事株式会社 穂坂純也氏より「グリーンアルミの動向と今後の展望」と題し、各国のアルミニウム製錬能力や発電源ごとの供給能力や今後のアルミニウム需要動向やCO₂排出規制に対する取組み等を情報提供した。中国四国支部では名城大学 田中武憲教授より「電動化による自動車産業集積への影響と今後の展望」と題して、自動車電動化の現状につき海外と国内を比較しながら詳しく説明され、電動化に挑戦する中堅企業の取組みを具体的な事例を交えながら紹介された。また、広島工業大学 日野 実教授より「自動車軽量を実現するマグネシウム合金と表面処理」と題し、マグネシウム合金の特徴や特性、軽量化効果、マグネシウム合金二次電池への応用を紹介した。東北支部は「軽金属研究開発の新たな方向性」をテーマにイブニングセミナーを開催した。これらの取組みを通し、中堅企業会員へ軽金属の現状や将来への展望についての情報共有と技術交流を図った。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会 5月、10月に対面で予定 2.講演会等 ①支部講演大会 2023年10月28日（苫小牧） 苫小牧高専にて実施 ②他学協会支部講演大会等への協賛 ・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション（7月）と講演大会（2024年1月）に協賛 ・工場見学会とセミナーの協賛 3.人材育成 ・若手育成支援事業 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞（優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞）選考・授与 5.維持会員加入勧誘活動 ・訪問活動継続	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会 ・5月13日 支部会議 対面（第144回春期大会会場、香川大学） 2022年活動状況、2023年活動計画について 2.講演会等 ①支部講演大会 2023年10月28日（苫小牧）苫小牧高専にて実施 ②他学協会支部講演大会等への協賛 ・2023年7月14日 日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部夏期合同サマーセッションに協賛 ・2023年8月24日（一社）表面技術協会と（公社）腐食防食学会北海道支部主催、工場見学会と2023年北海道夏期セミナーに協賛 3.人材育成 特になし 4.表彰関係 ①高橋記念賞に1名推薦し、受賞が決定した。 ②軽金属功労賞に1名推薦し、受賞した。 ③軽金属希望の星賞に1名推薦し、受賞した。 ④支部講演大会において、1名に支部学生優秀講演賞を授与した。 5.維持会員加入勧誘活動 継続中

(2) 東北支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会 2.講演会等 ①主催講演会 ②共催・講演行事 3.人材育成 ①学生ポスターセッション 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞（優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞）選考・授与 5.維持会員加入勧誘活動	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 3月29日運営委員会開催 2.講演会等 ①3月29日（金）支部講演会イブニングセミナー開催（東北大） ②共催・10月27日（金）塑性加工学会東北ブロック見学会（仙台市） 共催・12月6日（水）日本鉄鋼協会湯川記念講演会（弘前市） 共催・12月22日（金）東北大学金属材料研究所ワークショップ/日本バイオマテリアル学会東北ブロック交流会（仙台市） 共催・1月31日（水）日本金属学会支部講演会（弘前市） 3.該当なし 4.表彰関係 ①推薦者なし ②推薦1名、受賞に至らなかった ③推薦1名、受賞した ④該当なし 5.訪問活動1件
特記事項） ○若手支援として12月22日東北大学金属材料研究所ワークショップ/日本バイオマテリアル学会東北ブロック交流会（仙台市）を支援 ○3月29日東北大学工学部にてイブニングセミナー「軽金属研究開発の新たな方向性」を開催 講師3名、ハイブリッド開催 講演1「超軽量 Mg-Li 基合金の高強度化に向けて」 弘前大学 准教授 峯田才寛 講演2「トポロジカルデータ解析を用いた金属組織画像の定量化と力学特性予測」 東北大学 准教授 赤木和人 講演3「新材料研究開発に向けた新たなアプローチ」 東北大学 教授 齊藤 雄太	

(3)関東支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部運営委員会 4回/年	1. 支部運営委員会 第1回運営委員会 5月30日ハイブリッド形式 第2回運営委員会 9月13日オンライン形式 メール審議(6月17日、7月6日) WG会合(8月28日、10月4日) 第3回運営委員会 12月25日オンライン形式 メール審議(1月24日) 第4回運営委員会 2024年3月14日ハイブリッド形式 ⇒当初の計画通り4回/年実施した
2.講演会等	2.講演会等 第145回秋期大会(都立大)の実行援助 第147回秋期大会(群馬大)の準備 大会実行委員会委員の検討・編成
3.人材育成	3.人材育成 第9回若手研究者ポスター発表会 10月20日、 対面、参加者約60名(群馬大太田キャンパス)
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、 技術賞、奨励賞)選考・授与	4.表彰関係 ②軽金属功労賞推薦1件 ④支部賞(優秀ポスター賞 11件)選考・授与③軽金属希望の星賞一次選考 12月25日、枠内推薦11件 ④支部功労賞選考2件
5.維持会員加入勧誘活動	5.維持会員加入勧誘活動 適宜実施
特記事項) ・関東支部功労賞表彰(2023年12月25日):田村洋介(千葉工業大学)、西田進一(群馬大学) ・委員交代:2023年度 北脇高太郎(UACJ)→2024年度 滝口浩一郎(UACJ)	

(4)北陸支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(4月14日、9月)	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①4月13日(水)、於 富山大学 9月4日(月)、於 富山大学
2.講演会等 ①春期講演会・中堅企業支援セミナー ②秋期講演会・中堅企業支援セミナー	2. 講演会等 ①6月6日(火) 富山大学 67名参加 ②11月29日(水) 高岡ウイングウイング 72名
3.人材育成 ①幹事研修会	3.人材育成 ①幹事研修会:10月16、17日 ハリタ金属㈱、三協ワシメタル㈱視察
②若手育成支援事業	②若手人材育成事業:6月27日(水) 三協立山㈱、アイシン軽金属㈱見学
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦	4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:YKKAP㈱、UACJ㈱ ②なし ③11月推薦(3名+支部長枠1名=4名推薦)
5.維持会員加入勧誘活動	5.維持会員加入勧誘活動:随時
特記事項) 2. ①6月6日 春期講演会・中堅企業支援セミナー 招待講演:トヨタ自動車㈱ 浅井 千尋氏、富山大学 椿 範立教授 企業発表:アイシン軽金属㈱ 松井 宏昭氏 2. ②11月29日 秋期講演会・中堅企業支援セミナー 招待講演:日本アルミニウム協会 森山 勉氏、住友商事㈱ 穂坂 純也氏 研究発表:富山大学 李 昇原氏 協賛事業 ②日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部(6月、12月) ②日本・ノルウェーアルミニウム合金シンポジウム(11月、web) ③富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT)(9月、トリノ・イタリア) ③富山大学材料研究会(7月、9月、2月)	

(5)東海支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 ②理事会(3回、第1回は運営委員会と兼務) 2.講演会等 ①講演会(1回) ②研究部会(航空機材料部会) 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 ②若手の会(軽進会) ③女性会員の会 ④中・高生向け工場見学会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー ②TECH Biz 2024 :支部活動展示、講演会	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 5月10日実施 ②理事会 第1回 6/24 実施、第2回 9/15 実施、第3回 3/11 実施 2.講演会等 ①講演会(1回) 5/10 実施 ②研究部会(航空機材料部会) 圧延材残留応力分布測定などを実施 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 11/6 実施 ③女性会員の会 8/1「学生・研究者・技術者向けのキャリアプランミーティング」実施、12/1 工場見学会実施 ④ 3/26 工場見学会実施 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 1名推薦→受賞 ②3名推薦→3名受賞 ③企業奨励賞推薦 推薦できず 5.維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー 2024年2月5日実施 ②TECH Biz 2024: 2024年は5月実施
特記事項) ・2024年の春期講演大会実行委員会組織 ・支部特集の原稿作成 ・5/10 講演会「カーボンニュートラルに向けたエネルギー関連研究の動向」 ・8/1 「軽金属分野で活躍する女性研究者・技術者と話そう ライフプラン・キャリアプランを考える 7」 ・11/6 若手ポスター発表会は金属学会・鉄鋼協会東海支部と合同開催 ・高橋記念賞 アーレスティ 八木浩一氏を推薦、受賞 ・12/1 女性会員の会工場見学会 アーレスティ訪問 ・3/26 中高生の見学会 UACJ 訪問、参加者 30名(応募は49名)	

(6)関西支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会(2回) ②支部幹事会(2回) 2.講演会等 ①支部シンポジウム 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②若手研究者・院生による研究発表会 ③大学院生フィールドワーク助成プログラム 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④企業奨励賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続 ②出前講座	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会 第1回 2023年10月12日開催、第2回 2024年3月5日開催 ②支部幹事会 第1回 2023年10月12日開催、第2回 2024年3月5日開催 2.講演会等 ①支部シンポジウム:新型コロナウイルスの影響で開催できず 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール:新型コロナウイルスの影響で開催できず ②若手研究者・院生による研究発表会 日時:2024年3月5日(火)10:00~17:30 会場:兵庫県立大学姫路工学キャンパスにて開催 口頭発表6件、特別講演1件のほか、ポスター講演が22件。 ③大学院生フィールドワーク助成プログラム 株式会社神戸製鋼所、堺アルミ株式会社、東洋アルミニウム株式会社で実施。参加者は大阪工業大学、兵庫県立大学、関西大学、大阪大学の学生。 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:推薦なし ②軽金属功労賞推薦:推薦なし ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 枠内推薦者2名(高原太樹(兵庫県立大学)、藤本隆誠(兵庫県立大学)) 枠外推薦者2名(坂田貴洋(大阪大学)、嵯峨山葵(関西大学))を推薦 ④企業奨励賞:推薦なし 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続:活動中。 ②出前講座:新型コロナウイルスの影響で開催できず
特記事項) 3.人材育成 ②若手研究者・院生による研究発表会 口頭発表6件(京都大学、大阪工業大学、関西大学、神戸大学、大阪公立大学、(株)神戸製鋼所)、ポスター発表 特別講演 「測れるはず・・・ならとりあえず測ってみよう。放射光無手勝流組織評価のあゆみ」 京都大学 奥田 浩司 先生	

(7)中国四国支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会 2.講演会等 ①第15回支部講演大会(鳥取大学) ②研究会(2回) 3.人材育成 ①若手フォーラム ②高校生のポスター発表(岡山) 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与 5.維持会員加入勧誘活動 ①中小企業 R&D 支援プログラム、講演会を開催 ②訪問活動継続	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①「第1回役員会」 開催日:2023年5月13日(土)開催 会場:香川大学(第144回講演大会) ②「第2回役員会」2023年10月14日(鳥取大学) 2. 講演会 ①第15回支部講演大会(鳥取大学) 開催日:2023年10月14日開催、発表件数:22件、参加者:32名 ②支部研究会(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部共催) 開催日:2023年12月14日開催、会場:愛媛大学、参加者:20名 (世話係:岡山大学、愛媛大学) ③支部研究会(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部共催) 開催日:2024年1月17日開催、会場:広島大学(ハイブリッド)参加者:56名 (世話係:広島大学) 3. 人材育成 ①「第53回若手フォーラム」 (日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2023年12月13日開催、会場:ピュアリティまきび(岡山市)、 参加人数:19名(世話係:徳島大学) ②「第54回若手フォーラム」 (日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2023年12月23日開催、会場:徳島大学(徳島市)、参加人数47名 (世話係:徳島大学) ③「第55回若手フォーラム」 (日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2024年2月10日開催、会場:ピュアリティまきび(岡山市)、参加人数:46名(世話係:広島大学、岡山大学、岡山理科大学) 4.表彰関係 ①推薦無し ②推薦無し ③広島工業大学 川上滉太君推薦、受賞 ④支部賞 ④-1、支部優秀講演賞:上記2-①において、6件授与 ④-2、支部研究・開発奨励賞:上記2-①において、2件2組に授与 ④-3、支部特別功労賞:上記2-①1において、1件授与 ④-4、支部奨励賞:11件授与 5. 維持会員加入勧誘活動 「中堅企業支援セミナー」 開催日:2023年12月19日開催、会場:広島市工業技術センター(広島市) 参加人数:55名(世話係:広島市工業技術センター、広島工業大学)
特記事項) 2-①第15回支部講演大会 基調講演「純 Ti の変形転位組織に対する引張ひずみ速度と酸素濃度の影響」香川大学、田中康弘	

(8)九州支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) ②例会(2回) 第109回役員会・例会:JR博多シティ(7月) 第110回役員会・例会:㈱神戸製鋼所(3月) 2.講演会等 ①合同学術講演会共催:熊本(6月) 3.人材育成 ①若手研究者支援セミナー ②中堅企業支援支部セミナー 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①②第109回役員会・例会:7/27・JR博多シティ ①②第110回役員会・例会:3/8・㈱神戸製鋼所 長府製造所 ③金属系学協会九州支部支部長会:3/26・JR博多シティ 2.講演会等 ①6月10日・くまもと県民交流館パレア (日本金属学会九州支部、日本鉄鋼協会九州支部との共催) 基調講演2件、一般講演92件 3.人材育成 ①7月27日 26名参加、内 若手研究者6名 ①3月8日 19名参加、内 若手研究者1名 ②7月27日 26名参加、内 中堅企業6名 ②3月8日 19名参加、内 中堅企業4名 4.表彰関係 ①なし ②2名推薦 ③3名推薦→3名受賞 ④合同学術講演会で口頭発表優秀賞を授与した学生2名による招待講演

技術賞、奨励賞)選考・授与 ⑤軽金属学会賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①訪問活動継続 ②中堅企業支援支部セミナー	1名推薦→受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①1社に対して調整中 ②7月27日、3月8日開催
特記事項) ・第109回例会・中堅企業支援支部セミナー・若手研究者支援セミナー(7月27日 JR博多シティ) 中堅企業支援支部セミナー 「Al-Si系合金鋳物のマイクロ組織制御」 織田 和宏 氏(日本軽金属) 「耐屈曲性に優れたアルミニウム合金導体の開発」 小川 俊文 氏(福岡県工業技術センター) 「長周期積層型マグネシウム合金に特異な変形モードと強化機構」 光原 昌寿 氏(九州大学) 若手研究者支援セミナー 「高熱伝導性・高耐食性・高強度・不燃性を併せ持つ Mg-Al-Ca-Mn 合金押出材の開発」大崎 侃斗 氏(熊本大学大学院) 「Al-Cu 合金のレーザ照射によって形成された溶融池内における初晶率と成長速度の関係」 近藤 謙太郎 氏(九州大学大学院)	

Ⅱ. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期の開始時)	報酬	担当 *: 委員長	前回総会時役職
代表理事 ・会長	平野 清一	非常勤	2023 年 5 月 12 日		なし	組織*	㈱UACJ 取締役 専務執行役員 マーケティング・技術本部長
代表理事 ・副会長	佐々木 元	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総合計画*	広島大学教授
同上	久保田正広	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総合計画 国際交流	日本大学教授
理事	青木孝史朗	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 参与会	芝浦工業大学教授
同上	安藤 新二	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集	熊本大学教授
同上	安藤 哲也	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務 研究	室蘭工業大学准教授
同上	市野 良一	同上	2022 年 5 月 27 日	2023 年 5 月 12 日	同上	編集	名古屋大学教授
同上	奥田 浩司	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	研究	京都大学教授
同上	倉本 繁	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 国際交流*	茨城大学教授
同上	小林 正和	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総務 大会運営	豊橋技術科学大学教授
同上	柴柳 敏哉	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集* 国際交流	富山大学教授
同上	鈴木真由美	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	男女共同* 大会運営	富山県立大学教授
同上	田村 洋介	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総務	千葉工業大学教授
同上	千野 靖正	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	編集	産業技術総合研究所 材料・化学領域 研究企画主幹
同上	中川 恵友	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	大会運営	岡山理科大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	大会運営*	横浜国立大学教授
同上	星野 倫彦	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	企画 男女共同	日本大学教授
同上	水本 将之	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集	岩手大学教授
同上	向井 敏司	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 国際交流	神戸大学教授
同上	穴見 敏也	同上	2017 年 5 月 20 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務*	日本軽金属㈱ 技術・開発グループ 管理部長
同上	宇野 清文	同上	2017 年 5 月 20 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務 大会運営	三協立山㈱ サステナビリティ推進部 参与
同上	黒木 康德	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	研究*	㈱IHI 戦略技術統括本部 企画調査部 主幹
同上	田中 宏樹	同上	2022 年 5 月 27 日	2023 年 5 月 12 日	同上	参与会*	㈱UACJ マーケティング・技術本部 R&D センター主幹
同上	谷畑 弘之	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	男女共同	YKK AP㈱ 生産本部 素材技術部 技術企画室 主幹
同上	山本 邦夫	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	企画*	㈱神戸製鋼所 鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 担当部長
監事	中沢 靖	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	監事	㈱本田技術研究所先進技術研究所 エキスパートエンジニア AMG
同上	高山 善匡	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	同上	宇都宮大学教授

[2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	石川和徳	常勤	2013 年 1 月 1 日	全般	2023 年 5 月 31 日退職
事務局長	櫻井健夫	常勤	2023 年 1 月 1 日	全般	2023 年 6 月 1 日着任
職 員	前田その美	非常勤	1996 年 4 月 1 日	庶務	2021 年 10 月 1 日再雇用
職 員	木村明子	常勤	1996 年 4 月 1 日	庶務・編集	
職 員	矢住祐蔵	非常勤	2022 年 12 月 1 日	経理	
職 員	徳間由希	非常勤	2022 年 12 月 1 日	編集	
職 員	石川一博	非常勤	2023 年 7 月 1 日	経理	1 年契約

[3]会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
2023 年度定時総会	2023 年 5 月 12 日	1. 2022 年度事業報告に関する件(報告事項) 2. 2022 年度決算報告に関する件(審議事項) 3. 2023 年度事業計画の件(報告事項) 4. 2023 年度収支予算に関する件(報告事項) 5. 特別維持会員会費変動に関する件(審議事項) 6. 2023・2024 年度役員の選任に関する件(審議事項)	1. 賛成 818 名、原案通り確認。 2. 賛成 818 名、原案通り承認。 3. 賛成 818 名、原案通り確認。 4. 賛成 818 名、原案通り確認。 5. 賛成 818 名、原案通り承認。 6. 賛成 818 名、原案通り承認。

2. 理事会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 91 回	2023 年 4 月 27 日	【審議事項】 1.2023 年度定時総会に関する件 2.定時総会に関する件 3.会員異動に関する件 4.先行研究部会新設の件 【報告事項】 1.他学会との協賛事業の件 2.常設委員会報告 3.第 144 回春期大会ご案内	【審議事項】 1.全員異議なく承認。 2.全員異議なく承認。 3.全員異議なく承認。 4.全員異議なく承認。 【報告事項】 1.全員異議なく確認。 2.全員異議なく確認。 3.全員異議なく確認。
第 92 回	2023 年 5 月 12 日	1.会長及び副会長選任に関する件 2.役員の業務担当に関する件	1. 全員異議なく承認。 2. 全員異議なく承認。
第 93 回	2023 年 6 月 30 日	【審議事項】 1.新理事常設委員会担当に関する件 2.軽金属躍進賞・奨励賞・女性未来賞表彰選考に関する件 3. 第 146 回春期大会実行委員構成および予算書案に関する件 4. 規程類の改定 ①理事会規程 ②研究委員会規程 ③編集委員会規程 5. 第 145 回秋期大会開催形態の件 6. 会員異動、委員交代に関する件 7. 人事に関する件(事務局経理) 【報告事項】 1.第 144 回春期大会収支決算報告・大会後記 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 常設委員会報告 4.その他 ①ALMA2023 準備状況 ②常設委員会出席率 ③会員増に関する件	【審議事項】 1.全員異議なく承認。 2.全員異議なく承認。 3. 委員構成、予算を最新にし承認。 4. ①定款に基づき改定することで承認。 ②全員異議なく承認。 ③全員異議なく承認。 5.全員異議なく承認。 6.全員異議なく承認。 7. 採用期間を設定し異議なく承認。 1.原案を確認。web 参加者の確認、高松助成金等を明確化し、次回報告。 2.全員異議なく確認。 3.全員異議なく確認。 4.その他 ①原案通り意義なく確認。 ②原案通り意義なく確認。 ③原案通り意義なく確認。
第 94 回	2023 年 9 月 29 日	【審議事項】 1.軽金属論文賞並びに論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞選考に関する件 2.規程類の改定に関する件 3.会員異動・常設委員会委員の変更に関する件 【報告事項】 1.第 145 回秋期大会に関する件 2.ALMA2023 開催に関する件 3.第 146 回春期大会開催に関する件 4.他学会との協賛事業に関する件 5.常設委員会報告 6.その他 ①石川事務局長感謝状に関する件 ②参与会に関する件	【審議事項】 1. 全員異議なく承認。 2. 全員異議なく承認。 3. 全員異議なく承認。 【報告事項】 1. 全員異議なく確認。 2. 全員異議なく確認。 3. 全員異議なく確認。 4. 全員異議なく確認。 5. 全員異議なく確認。 6. ①全員異議なく確認 ②全員異議なく確認。
第 95 回	2023 年 10 月 27 日	【審議事項】 1.軽金属学会賞・功労賞・功績賞表彰選考に関する件 2.Materials Transactions Review 投稿助成選考に関する件 3.会員異動に関する件 【報告事項】	【審議事項】 1.全員異議なく承認。 2.全員異議なく承認。 3.新維持会員の入会保留。 【報告事項】

		1.支部活動報告 2.他学会との協賛事業に関する件 3.常設委員会報告 4.その他	1.全員異議なく確認。 2.全員異議なく確認。 3.全員異議なく確認。 4.全員異議なく確認。
第 96 回	2024 年 1 月 19 日	【審議事項】 1.軽金属希望の星賞に関する件 2.永年会員候補者に関する件 3.研究部会新設および先行研究部会活動延長に関する件 4.第 147 回秋期大会実行委員会委員構成および予算に関する件 5.理事会および常設委員会・2024 年度年間スケジュールに関する件 6.理事会規程に関する件 7.会員異動に関する件 【報告事項】 1.2023 年度上期会計報告の件 2.第 145 回秋期大会報告・収支決算報告に関する件 3.第 146 回春期大会開催に関する件 4.国際交流委員会(ALMA2023、タイセミナー)報告・決算報告に関する件 5.他学会との協賛事業に関する件 6.その他 ①2023 年度第 2 回参与会報告、2024 年度計画に関する件 【表彰式】 感謝状・表彰式	【審議事項】 1.全員異議なく承認。 2.逝去者、退会者を確認し承認。 3 全員異議なく承認。 4.委員構成及び予算について再検討することで暫定承認。 5.常設委員会の予算に係る報告を考慮し、適宜開催することで承認。 6. 開催日の変更につき総務委員会で規程変更を推進することで承認。 7.全員異議なく承認。 【報告事項】 1.内容を修正し再確認。 2.決算報告を修正し再確認。 3.委員構成、予算の見直し再確認。 4.全員異議なく確認。 5. 全員異議なく確認。 6. ①全員異議なく確認。 【表彰式】 前事務局長・石川和徳氏 感謝状授与。
第 97 回	2024 年 2 月 22 日	【審議事項】 1. 2024 年度定時総会開催に関する件 2. 2024 年度特別維持会員会費の件 3. 理事会規程改定に関する件 4. 研究部会(1 部会)延長に関する件 5. 会員異動、支部長交代に関する件 【報告事項】 1. 第 146 回春期大会開催に関する件 2. 第 147 回秋期大会実行委員会委員構成・予算に関する件 3. 他学会との協賛事業の件 4. 1-2 月の常設委員会報告 1)編集委員会 2)男女共同参画委員会 3)大会運営委員会 5. その他 1)2024 年度理事会開催日程案 2)塚本素山ビル・家賃改定に関する件 3)日本郵便・配送料改定に関する件	【審議事項】 1.全員異議なく承認 2.全員異議なく承認。 3.全員異議なく承認。 4.全員異議なく承認。 5.全員異議なく承認。 【報告事項】 1.全員異議なく確認。 2.全員異議なく確認。 3 全員異議なく確認。 4 全員異議なく確認。 5. 1)全員異議なく確認。 2)原案を確認し、次年度協議で合意。 3)現状を確認し、次年度協議で合意。
第 98 回	2024 年 3 月 28 日	【審議事項】 1. 2024 年度事業計画に関する件 2. 2024 年度収支予算に関する件 3. 2023 年・2024 年度役員の補充選任に関する件 4. 会費規程改定に関する件 5. 研究部会長交代に関する件 6. 支部長交代に関する件 7. 会員異動に関する件 【報告事項】 1.常設委員会 2024 年度事業計画について 2. 他学会との協賛事業の件 3. その他 ①第 146 回春期大会に関する件 ②2024 年度表彰スケジュールに関する件 ③2024 年度理事会開催スケジュールに関する件 ④日本工学会功労賞受賞に関する件	【審議事項】 1.原案を確認し、暫定承認。 2.次回理事会で承認することで合意。 3.全員異議なく承認。 4.全員異議なく承認。 5.全員異議なく承認。 6.全員異議なく承認。 7.維持会員入会保留。次回以降で審議。他は全員異議なく承認。 【報告事項】 1.全員異議なく確認。 2.全員異議なく確認。 3. その他 ①全員異議なく確認。 ②全員異議なく確認。 ③全員異議なく確認。 ④全員異議なく確認。

3. 各種委員会

(1) 参与会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 35 回	2023 年 9 月 12 日	1.見学会の実施 2.講演会の実施	1.IHI つなぐラボ/共創スペース i-Base/アンモニア関連設備を見学。 2.技術開発本部紹介・カーボンニュートラル関連技術紹介。 共創活動の紹介。 3. 参与会活動計画について。
第 36 回	2023 年 12 月 7 日	1.見学会の実施 2.講演会の実施 3.参与会計画	1.電力中央研究所・横須賀を見学。 2.講演:カーボンニュートラルに向けた水素のエネルギー政策 見学:燃料電池関連ラボ設備、水素発電(アンモニア・石炭)設備など。 3.参与会活動計画(2024 年度・テーマエネルギー):産総研・福島(7 月予定)、東邦ガス(12 月予定)。

(2) 総合計画委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	2023 年 6 月 30 日	1. 前期委員会からの引継ぎ事項 2. 今期委員会活動計画 3. 長期ビジョン 4. 生産技術 WG 5. その他 ①常設委員会出席率推移 ②会員増に向けた取組み	1. 2021・2022 年度からの引継ぎ事項、2023・2024 年度活動計画について確認し、認識統一を図った。 2. 各常設委員会から前期引継ぎ事項をもとに 2023・2024 年度の活動計画が報告され、確認。 3. 公開版の内容を新メンバーで確認。内部版の継続的な検討と見直し推進。 4. 鋳物ダイカスト関連企画の検討推進。 5. その他 ①2021・2022 年から増加傾向を確認。2023・2024 年度も継続し出席率増に取組む。 ②1997 年～2022 年会員数推移を報告し確認。退会者分析は継続整理。
第 2 回	2023 年 10 月 27 日	1.常設委員会活動計画 2.支部活動・中間報告(各支部長) 3.生産技術(関連事業拡大)WG・進め方 4.その他	1.総合計画、編集、研究、国際交流、男女共同参画委員会より上期の活動実績と今後の活動計画の報告があり確認。 2.各 8 支部長から資料(活動中間報告)に基づき報告があり確認。 3.生産技術の一環として鋳物ダイカスト シンポジウム企画提案があり確認。 4.第 145 回秋期大会、146 回春期大会の準備状況の報告があり確認。
第 3 回	2024 年 1 月 19 日	1.常設委員会活動計画 2.その他	1.研究委員会、大会運営委員会、国際交流委員会、企画委員会、総務委員会につき 2023 年度成果報告及び 2024 年度活動計画を確認。 2.理事会および常設委員会の 2024 年度年間スケジュールにつき全員確認し、変更案については理事会にて決議。
第 4 回	2024 年 2 月 22 日	1.常設委員会活動計画 ①編集委員会 ②男女共同参画委員会 ③支部長会(各支部長) 2.その他 ①日本郵政・郵送料改定に関する件 ②塚本素山ビル 家賃改定に関する件	1.常設委員会 編集委員会、男女共同参画委員会の 2023 年度活動実績ならびに計画を確認。 各支部の 2023 年活動実績ならびに計画を確認。 2. ①資料に基づき全員で確認。委任状の電子化などにつき次年度以降協議することで合意。 ②資料に基づき全員で確認。次年度以降協議することで合意。
第 5 回	2024 年 3 月 28 日	1.常設委員会 2024 年度活動計画報告 ①研究委員会 ②編集委員会 ③大会運営委員会 ④企画委員会 ⑥国際交流委員会 ⑦男女共同参画委員会 2.その他 ・2024 年度常設委員会開催について ・長期ビジョン見直しについて	1.各常設委員会の 2023 年活動実績、2024 年活動計画を確認し指摘事項を加筆・修正し、定時総会報告及び審議事項とすることで合意。 2. ・原案を協議し、原案通り開催することで合意。 ・2024 年度以降活動実績・計画に応じ見直すことで合意。

(3)総務委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 304 回	2023 年 8 月 1 日	1.人材育成 WG 報告 2.規程・会員特典 WG 3.広報・ホームページ WG 4.その他 ・長期ビジョン ・会員推移・退会分析 ・第 145 回秋期大会懇親会缶ビール代について	1.・小中学生向け企画を男女共同参画委員会とコラボし推進。 ・新たな人材育成企画は生産技術者を対象に具現化。 2.・生産技術者の移行をフォローアップ ・編集・企画・研究委員会と協働で企画をサポート。無料コンテンツの発掘。 3.・全軽金属材料を網羅するポータルサイトの検討。親しみある学会へ。 4. ・学会 100 周年に向けたビジョンの継続議論。 ・企業会員減の傾向。休眠会員制度の現状把握。 ・缶ビール代に限定した懇親会への協力依頼を MA アルミ、レゾナック、YKK AP に打診。
第 305 回	2023 年 10 月 5 日	1.人材育成 WG 2.規程・会員特典 WG 3.広報・ホームページ WG 4.その他	1.人材育成企画 23 年活動状況確認 ・製品供与・貸与事業 2023 年度状況報告。 ・小中高生向け施策の具現化:夏の学校の参画(実験・実演)。 ・生産技術者向け施策:表彰等検討中。 2.会員特典として、会誌、部会報告書など web 閲覧可能。 3. 広報・HP ・ポータルサイトの利用性向上、学生・一般人への対応、春秋大会のパスポート化等を検討のため担当決定。 4. その他 23 年 10 月より開始されたインボイス制度に対応した請求書・領収書の確認。
第 306 回	2024 年 1 月 11 日	1.人材育成 WG 2.規程・会委員特典 WG 3.広報・ホームページ 4.その他 ・軽金属希望の星賞 ・軽金属企業奨励賞	1.ライトメタルリクルート例年通り実施。製品供与・貸与新製品を募集し、取りまとめ 4 月よりスタート。 2.理事会規程変更に基づきメール審議。 3. HP 見直し検討。新規企画の検討。 4. ・軽金属希望の星賞 28 名を選考し、理事会上申。 ・軽金属企業奨励賞 2023 年度は無し。

(4)企画委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 12 回	2023 年 5 月 22 日	1.開催報告 2.シンポジウム・セミナー今後のスケジュール ・128 回アップグレードリサイクルシンポジウム ・129 回接合シンポジウム ・130 回車両信頼性評価技術シンポジウム ・131 回水素社会を支えるアルミシンポジウム ・軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織入門編、中級編、応用編」 3.長期ビジョン 4.引継ぎ事項 5.新規イベントの企画 ・チタンセミナー ・生産技術関連シンポジウム検討 6.会員数増に向けた取り組み	1.第 127 回シンポジウムの開催報告を確認。 2.各企画の開催計画及び進捗報告。 ・ハイブリッド開催(参加者 72 名内半数がオンライン)、事前テスト開催。 ・会告案作成。9～10 月開催予定。 ・会告案検討中。10～11 月開催予定。 ・会告案検討中。12 月開催予定。 ・例年通り計画。 3.公開版、内部版確認。 4.生産技術テーマは WG で議論した分野の優先順位を参考に企画。 ハイブリッド開催の継続検討。 5.チタンの基礎と応用の発刊に伴うセミナー・シンポジウムの開催検討。 6.生産技術系シンポ企画の継続開催。 ※製造・ダイカスト企画の検討。
第 1 回	2023 年 7 月 27 日	1.シンポジウム開催報告 2.シンポジウム開催計画 ①129 回接合シンポジウム ②130 回車両信頼性評価技術シンポジウム ③131 回水素社会を支えるアルミニウムシンポジウム ④軽金属基礎技術講座 ⑤軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織入門編、中級編、応用編」 3.長期ビジョン ロードマップ外部公開版 4.新規イベントの企画	1.第 128 回アップグレードリサイクルセミナー開催報告、アンケート結果報告。 2.シンポ・セミナー開催計画。 ①129 回シンポ 10 月末開催に向け調整。 ②130 回車両信頼性シンポ 11 月末開催に向け調整中。 ③世話人設定。 ④例年通り 11 月開催・世話人選任。 ⑤例年通り実施(講師検討)。 3.内部版は継続審議し、リニューアル。 4.132 回以降のシンポジウム企画議論。

		5.その他	・生産技術関連シンポジウム案検討。 ※世話人の設定 5. ・常設委員会出席率推移 ・会員退会者数→精査 ・会員数増に向けた企画検討(生産技術)
第2回	2023年10月13日	1.シンポジウム・セミナー等の各担当 2.シンポジウム・セミナー 今後の計画 3.新規イベントの企画 4.その他	1.シンポ、セミナーの担当委員決定 2.シンポジウム計画 ①129回水素社会を支えるアルミニウムシンポジウム 2024年1月19日開催予定。 ②130 回車両信頼性評価技術シンポジウム 24年1月26日開催予定。 ③接合シンポジウム 講師打診中。 ④軽金属基礎技術講座 11月16-17日開催(つま恋)。 ⑤軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織」-入門編- 2023年11月21日、-中級編- 2023年12月19日、-応用編- 2024年2月2日 3.生産技術関連シンポジウム案検討。 ・鋳物ダイカスト関連シンポジウム計画。 4. その他 ・シンポ/セミナー関連アンケート実施。 ・タイセミナー11月開催に向けた基礎技術講座の開催日の調整。
第3回	2023年11月30日	1.シンポジウム・セミナー開催計画・結果報告 ①129 回 CN を実現する水素社会を支えるアルミニウム ②130 回車両構体の信頼性を高める材料評価技術 ③131 回アルミニウム合金接合の最前線 ④軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」・結果報告 ⑤軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織」 -入門編- 23年11月21日結果報告 -中級編- 23年12月19日計画 -応用編- 24年2月2日計画・状況確認 2.新規イベントの企画 ・シンポジウム・セミナーテーマに関するアンケート結果報告 ・生産技術関連シンポジウム案検討 ・鋳物・ダイカスト技術など企画案 ・要素技術(表面処理、接合、塑性加工) 3.その他 ・軽金属基礎技術講座・タイセミナー開催月	1.シンポジウム・セミナー ①原案通り開催で承認。 ②原案通り開催で承認。 ③3月1日(金)名古屋工業大学(協賛)で実施。サブタイトル追加、参加費。 ④参加者アンケート、収支確認。 ⑤入門編、参加者アンケート収支確認。中級編、応用編の開催内容、参加者状況を確認。 2.シンポジウム・セミナーの委員アンケート内容の確認。 ・生産技術関連シンポの計画を確認。 ・ギガキャスト関連シンポジウムの開催計画確認。 ・要素技術関連シンポの計画確認。 3.その他 タイセミナーの開催9月で調整。
第4回	2024年1月25日	1.シンポジウム・セミナー開催計画・結果報告 2.新規イベントの企画 3.その他	1.129 回シンポジウム結果、130 回、131 回シンポジウムの開催計画を確認。軽金属基礎技術講座結果報告、軽金属セミナー中級編の結果報告、応用編の計画を確認。 2.研究部会の活動計画としてシンポジウム企画につき対象テーマを確認。 ギガキャストシンポジウムの企画を確認 3.九大戸田教授よりシンポジウム提案があり、夏以降で計画することで確認。
第5回	2024年3月19日	1.シンポジウム・セミナー開催計画および結果報告 2.新規イベントの企画	1. ①131 回アルミニウム合金同種および異種材料との接合の最前線。 ②軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織」-応用編。 の開催結果につき全員で確認。 2.132 回以降のシンポジウム企画議論(年 4 回実施計画を確認。 ・鋳物・ダイカスト技術など企画案を確認。 ・生産技術関連シンポジウム案検討案を確認。 ・チタンセミナー企画案・検討依頼案を確認。 ・要素技術シンポジウム企画検討推進。

		3.その他 ・長期ビジョンに向けた取組み見直しの件 ・生産技術WG資料確認の件 ・委員会開催の件	3.その他 ・長期ビジョンは委員会の新規企画・取組みに対応し見直すことで合意。 ・生産技術WG資料を全員で確認。 ・原案通り異議なく合意。
--	--	---	--

(5)編集委員会・幹事会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
2023 年度 第 1 回 編集委員会	2023 年 5 月 14 日	1.軽金属・MT の現状、長期ビジョン、引継ぎ事項、投稿数増加策 2.プレプリントサーバー掲載論文の投稿関連	1.資料に基づき、委員長より説明。現状確認。 2.プレプリント論文の扱いにつき、次回の編集委員会で回答。
第 632 回	2023 年 5 月 30 日	1.軽金属誌編集進捗状況報告 2.投稿・査読状況報告 3.軽金属 6・7 月号掲載内容報告 4.軽金属時活性化状況報告 1)特集・連載講座 G 報告 2)解説記事 G 報告 3)企画整備 G 報告 5.その他 ・長期ビジョン ・引継ぎ事項 ・会員増への取組み	1.進捗状況を確認。 2.投稿・査読状況を確認。 3.掲載内容を確認。 4.各 G 検討結果報告。 1)マグネシウム合金連載講座 24 年 1 月よりスタート、内容確認。 ミニ特集「脱炭素」144 回大会招待講演より企画(24 年 9 月号) 2)トップ座談会進捗確認。 解説記事進捗状況確認。 新規解説執筆者推薦アンケート案確認。 3)編集委員会規程、特任編集委員。 に連載講座を追加⇒理事会上申。 特任編集委員細則に連載講座を追加⇒総務委員会に提示、審議。 5.下記内容を報告・議論。 ・公開版、内部版の内容の確認。 ・新規活動、次期への引継ぎを確認。 ・会員入退会者推移、退会者分析を確認。会員増に向けた取組みを協議。
第 633 回	2023 年 7 月 20 日	1.編集幹事会の進め方と各グループ担当 2.引継ぎ事項 ①特集・連載講座 G ②解説記事 G ・トップ座談会 ・解説記事依頼 ③規程整備 G ・特任編集委員 3.その他 ・長期ビジョン 内部版 ・会員推移・退会者分析について	1. ・特集・連載講座 G、解説記事 G、企画整備 G の担当メンバー決定。 2.引継ぎ事項 ①特集・連載講座 G ・マグネシウム関連 連載講座 進捗状況を確認。 ・ミニ特集・脱炭素化社会に向けた取組み(144 回企業招待講演依頼)を確認。 ②解説記事 G ・2024 年トップ懇談会 取材先案 東洋製罐殿 進捗状況確認。 ・解説記事依頼・アンケート実施。 ③規程整備 G ・編集委員会規程・特任編集委員運営細則改定案(特任編集委員に連載講座追加)(次回総務委員会へ提出) 3. ・内部版の継続協議。 ・企業会員維持への企画(生産技術)。
第 634 回	2023 年 9 月 25 日	1.新メンバーによる編集幹事会の進め方と各グループ担当の報告 2.各 G から進捗状況と今後の進め方 ・特集・連載講座 G ・解説記事 G 3.その他 ・Materials Transactions 編集委員会報告 ・Deep-L の利用の報告	1.資料に基づき報告。担当の確認。 2.資料に基づき報告。 ・Mg 関連連載講座、年間レビュー執筆者確認。 ・トップ座談会、解説アンケート結果報告。 3. ・MT 議事録確認、宿題事項確認。 ・Deep-L の活用による MT 執筆の推進確認。
2023 年度 第 2 回 編集委員会	2023 年 11 月 12 日	1.軽金属誌の現況(編集委員長) 2.共同刊行誌 Mater. Trans.について(編集委員長) 3.その他(投稿数増加策 等)	1.資料に基づき、委員長より説明。軽金属誌の現況を確認。 2.MT 英訳投稿支援として Deep-L の利用につき共有化。 3.特集への投稿掲載料の無料化による年間掲載論文数の増加を確認。

第 635 回	2023 年 11 月 28 日	1.各 G から進捗状況と今後の進め方 ①特集号・連載講座 Gr ②解説記事 G 2.その他	1. 各 Gr ①特集・連載講座 G ・マグネシウム関連連載講座進捗状況を確認。 ・2025 年特集号(7000 系時効析出挙動研究部会)計画。 ・年間レビュー執筆者の確認。 ・ミニ特集進捗および計画を確認。 ②解説記事 G ・2024 年トップ座談会掲載内容確認。 ・依頼中の解説論文の確認。 ・解説記事依頼状況、アンケート結果を確認。 2.その他 ①Materials Transactions 編集委員会議事録を確認。 ②第 146 回テーマセッション 4 件につき特集号テーマ案として検討。
第 636 回	2024 年 1 月 29 日	1.各 G から進捗状況と今後の進め方 ①特集・連載講座 G ②解説記事 G 2.その他 ①第 146 回テーマセッション(特集号テーマ案) ②第 147 回テーマセッション公募について	1. ①特集・連載講座 G ・マグネシウム関連連載講座 状況を確認(24 年 4 月スタート)。 ・2025 年 2 月特集号(7000 系時効析出挙動研究部会)を確認。 ・研究部会特集号計画について確認。 ・ミニ特集 状況報告と今後の進め方を確認。 ②解説記事 ・2024 年トップ座談会 掲載内容を確認。 ・2025 年度以降 トップ座談会計画検討。 ・依頼中の解説論文を確認。 ・解説記事依頼状況報告。 2. ①146 回テーマセッション 4 テーマの内 2 テーマが特集号テーマとして推進。 ②原案通り異議なく合意。
第 637 回	2024 年 3 月 29 日	1.各 G から進捗状況と今後の進め方 ①特集・連載講座 G ・マグネシウム関連連載講座 ・2025 年特集号 ・ミニ特集(案)計画について ②解説記事 G ・2024 年トップ座談会 ・依頼中の解説論文について ・解説記事依頼状況報告 3)その他 ①第 147 回テーマセッションについて ②編集委員会開催について	1. ①特集・連載講座 G ・マグネシウム連載講座進捗状況を確認。 ・Mg 連載講座以降の計画を議論。 ・特集号として 2025 年 2 月、3 月特集号の計画を全員で確認。 ・ミニ特集(案)計画を確認。 ②解説記事 G ・2024 年トップ座談会の企画が報告され、ヤマハ発動機としマルチマテリアル関連をテーマとすることで合意。 ・依頼中の解説論文を確認。 ・解説記事依頼進捗の確認。 3)その他 ①第 147 回テーマセッション 5 件を確認し、4 月採択に進める。 ②原案通り開催することで合意。

(6)国際交流委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 8 回	2023 年 5 月 25 日	1.ALMA2023 2.タイ研修会 3.第 3 回フ라운ホーフワークショップ 4.国際ミニワークショップ 5.長期ビジョン 6.引継ぎ事項 7.台湾軽金属協会からの工場見学依頼 8.会員増の取組み	1.講演者決定(韓国以外)、2nd サーキュラーおよびプログラム作成へ。 2.講師打合せ終了。契約完了。工場見学調整。 3.ゼロベースで再検討要、継続検討。 4.マグネ、チタンに焦点あてる方針で提案。 5.公開版、内部版の内容確認。 6.ALMA の対面開催準備徹底。タイセミナーの実施。国際賞の再検討。 7.双方の事務局間で実現性を協議。 8.退会者の企業別人数、退会理由など詳細分析を行い、会員増を継続検討。

第1回	2023年8月8日	1.ALMA2023 Forum & Meeting 2. タイ研修会詳細報告 3.第3回フラウンフォーワーワークショップ・進捗 4.国際ミニワークショップ開催支援策案 5.国際賞の検討他 6.その他 ①TWLMAからの工場見学会依頼 ②会員数推移・退会者数分析結果報告	1.2nd サーキュラー完成、会告(9月号)。 ・会場確認(都立大1号館第2会場)。 ・各国講演者プロフィール、講演概要確認。 ・見学会の確認。 ・MOU締結に向け準備。 2. 講師・講義内容、見学会、スケジュール、契約、予算関連。 3.担当を決めて新たな企画推進。 4.海外研究者の招聘を検討。 5. 継続議論。 6. ①24年3月に延期。 ②企業会員の退会者が低下。データ蓄積し、詳細分析要。
第2回	2023年10月6日	1.ALMA2023 Forum & Meeting 2.タイ研修会 3.国際ミニワークショップ実施案	1.ALMA2023 準備状況確認 ALMA フォーラム(講演者10名)。 見学会(鉄道総研・日本電子)。 2.9月6~8日実施。受講者100名強。 2年毎に開催計画(11月開催調整)。
第3回	2023年12月5日	1.ALMA2023 Meeting & Forum MOU締結、決算報告 2.タイ研修会 3.国際ワークショップ	1.MOU締結。次回ALMA開催は2026年とし偶数年で実施。決算は原案通り承認。 2.2年毎にタイにて9月開催。決算報告実施(理事会報告)。 3.フラウンフォーワー等は国際ワークショップ等で実施計画。
第4回	2024年3月21日	1.ALMA2023 理事会報告、2026に向けての企画・予算(案)について 2.タイ研究会理事会報告、タイ研究会2025の企画・予算(案)について 3.フラウンフォーワーおよび国際ワークショップについて 4.国際賞の検討他 5.その他 ・ICAA19関連 ・国際便り ・委員会開催スケジュールについて	1. ・ALMA2023 理事会報告内容を全員で確認。 ・ALMA2026 に向け開催計画(開催日、会場、担当、参加者等)を検討。 2. ・タイ研究会理事会報告内容を全員で確認。 ・タイ研究会2025計画(開催日2025年9月、担当、講師など)を検討し、2024年8月から計画することで合意。 3.フラウンフォーワーは担当者交代のため、国際ワークショップとして活動し、ミニワークショップも適宜計画することで合意。 4. 国際賞の過去の経緯を確認し、学会としての賞の位置づけを協議していくことで合意。 5.その他 ・ICAA19:HPプログラム公開等素確認。 ・国際便り掲載2編を確認。 ・原案通り異議なく開催案を合意。

(7)大会運営委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第1回	2023年7月28日	1.第144回春期大会報告 2.第145回秋期大会(東京都立大学)の開催計画 3.第146回春期大会(名古屋)の開催計画 4.企業WG報告 5.大会運営WG報告 6.男女共同参画委員会第145回秋期大会関連 7.その他 ・長期ビジョン	1.144回春期大会報告事項 決算報告:収入見直し、支出領収書入手後算出し、報告書を作成。 大会後記、大会アンケート報告。 2.開催案内(会場マップ等)、準備状況確認。 3.実行委員会委員案、予算案、市民フォーラム、その他の行事の報告。 4.実行委員会委員案、予算案、市民フォーラム、その他の行事を確認。 5. 第144回アンケート結果報告 ハイブリッド開催ガイドライン 6.145回秋期大会・男女共同参画セッション、若手の会、女性会員の会ハイブリッド開催企画報告(一般参加受入)。 ・託児室設置 7. ・内部版の継続検討。

		・総合計画委員会関連 ・2.5 日制アンケートについて	・生産技術関連 講演セッション、イベント取入れ検討。 ・2.5 日制アンケート結果報告と今後の開催について検討。アンケートは継続実施。
第 2 回	2023 年 10 月 23 日	1.第 145 回秋期大会(東京都立大)開催準備状況 2.第 146 回春期大会(名古屋)の開催計画 3.企業 WG 4.男女共同参画委員会企画 5.その他	1.第 145 回秋期大会(東京都立大学)を確認。 ①表彰式・小山田記念講演・市民フォーラム。 ②ポスター発表 2 部構成、採点など。 ③企業 WG:企業研究会。 ④男女共同参画委員会:男女共同参画セミナー、若手の会・女性会員の会、託児室。 ⑤145 回ハイブリッド・マニュアル。 ⑥145 回秋期大会アンケート実施案。 2.146 回春期大会(名古屋大学)の計画を確認。 ①会告案、市民フォーラム、会場案、企業研究会、機器・カタログ展示。 ②146 回春期大会テーマセッション・採択結果 3. 企業 WG 企画。 ・146 回企業研究会企画案を確認。 ・147 回企業研究会企画案を検討。 4. 男女共同参画セッションの企画を確認。 5.その他。 ・2.5 日制アンケート継続実施と今後の開催について検討。
第 3 回	2024 年 2 月 6 日	1.145 回秋期大会報告 2.146 回春期大会計画 3.147 回春期大会(群馬大学)実行委員会・予算企画 4. 企業 WG 企画 5.男女共同参画委員会企画	1.資料に基づき、全員で確認。 2.資料に基づき、全員で確認。 3.資料の基づき、全員で確認。 4.企業招待講演の企画推進。 145 回企業研究会報告。146 回企画を資料に基づき全員で確認。 5.資料に基づき 145 回大会パネルディスカッションの結果を確認。146 回春期大会の計画を確認。

(8)研究委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 7 回	2023 年 4 月 24 日	1.部会期末報告 2.新研究部会活動計画報告 3.先行研究部会活動計画報告 4.先行研究部会新設 5.2022 年度決算(見込み)と 2023 年度予算 6.2022 年度研究事業報告と 2023 年度研究事業計画 7.2023 年度研究部会費徴収 8.部会紹介会誌掲載 9.長期ビジョン 公開用・内部用 10.引継事項	1.研究部会 15 部会報告。 2.新設 3 部会報告(期末報告後後継とし報告)。 3.先行研究部会 6 部会活動計画の報告と確認。 4.3 部会メール審議で承認。4/27 理事会上申。 5.資料に基づき報告。 6.資料に基づき報告。 7.資料に基づき 6 月に徴収。 8.全員異議なく確認。 9.公開版リーフレット作成、HP 掲載を確認。 10.資料に基づき報告。
第 1 回	2023 年 8 月 10 日	1. 2023・2024 年度研究委員会活動(運営) 2. 先行研究部会 3 部会の紹介と進め方 3. 次回中間報告について	1.新設部会検討&ロードマップ WG とし、7 分科会構成を確認。 ・活性化 WG の設立(生産技術系拡張)。 ・活動範囲拡張に向けた取組み提案。 2.先行研究部会 2 件の紹介。 ・アルミニウム産業に関する工学的かつ経済的な計量計算先行研究部会。 ・アルミニウム表面処理廃液課題検討先行研究部会。 3. 2023 年度完了研究部会中間報告。 7 部会(9or10 月)、6 部会(12 月)。 先行研究部会を報告することで合意。
第 2 回	2023 年 10 月 17 日	1.研究委員会活動について 2.研究部会中間報告	1.10 月中間報告 7 部会、12 月残 6 部会中間報告と先行研究部会 9 部会の活動結果報告と新部会立ち上げ提案。 2.研究部会 7 部会の中間報告実施。 ・押出材組織に起因する欠陥検討部会。 ・アルミニウム中の水素と材料物性研究部会。 ・アルミニウム接着接合研究部会。

		3.次回委員会日程・研究部会および先行研究部会報告について	・汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会。 ・LPSO/MFS 構造材料研究部会。 ・マテリアルズ・インフォマティクス研究部会。 ・加工熱処理工程における動的／静的組織形成予測部会。 3. 12 月研究委員会実施計画提案。
第 3 回	2023 年 12 月 1 日、8 日	1.研究部会中間報告	1.研究部会 6 部会の中間報告実施。 ・アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会。 ・アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会。 ・アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会。 ・6000 系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会 ・中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会。 ・7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会。 2.部会検討 WG の活動報告
第 4 回	2023 年 12 月 20 日、22 日	1.先行研究部会活動成果および今後の進め方 2.後継研究部会設立	1.先行研究部会 9 部会成果報告と今後の進め方 ＜先行⇒新設研究部会＞ ・アルミニウム(合金)の不純物制御。 ・アルミニウム屑の固相選別技術。 ・次世代アルミニウム溶解技術。 ＜活動期間 1 年延長＞ ・溶解工程における不純物低減技術。 ・アルミニウム表面処理廃液課題検討。 ・異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討。 ・アルミニウム産業に関する工学的かつ経済的な計量計算。 ・H₂ 貯蔵用アルミニウム合金。 ・サーマルマネジメント材料技術。 ※3 先行部会は研究部会新設、6 先行部会は活動期間 1 年延長で理事会上申。 2.後継研究部会活動計画・予算報告。 ・押出加工中の溶着部制御技術研究部会。 ・アルミニウム合金中の水素評価研究部会。 ・キンク研究部会。 ・マグネシウムのためのマテリアル DX 研究部会 ※研究委員による承認は Google Forms により実施。理事会上申は 1 月および 2 月に実施。

(9)支部長会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	2023 年 5 月 14 日	1.2022 年度収支報告、2023 年度収支予算 2.中堅企業支援活動の 2022 年度実績と 2023 年度活動 3.今後の開催予定地 4.年間表彰スケジュール 5.会員増の取組みについて	1.事務局より提示した資料を確認。 2.2022 年度の実績確認、2023 年度の活動要請(会員増の取組検討)。 3.148 回大会北九州国際会議場決定。 150 回以降の開催地を協議。 4.2023 年度表彰スケジュールを確認。 5.入退会者推移、退会者分析等を確認。会員増向け支部活動を検討。
第 2 回	2023 年 11 月 12 日	1.2023 年度支部第 2 四半期決算について 2.支部活動中間報告と今後の活動計画について 3.今後の春秋大会開催予定地について 4.軽金属希望の星賞・企業奨励賞について 5.年間表彰スケジュールについて	1.2 四半期決算内容を確認し、問題があれば事務局に連絡することで合意。 2.各支部の上期活動中間報告と計画を確認。 3. 2024、2025 年春秋期大会の開催会場を確認し、2026 年春秋大会は富山国際会議場、27 年春は北海道支部開催する。 4.希望の星賞の各支部推薦応募枠を確認。 5.24 年度表彰年間スケジュールを確認し、支部推薦の各賞を推進。

第3回	2024年2月22日	1.2023年度支部第3四半期決算について 2.支部活動中間報告と今後の活動計画について 3.今後の春秋大会開催予定地について 4.年間表彰スケジュールについて 5. その他	1.事務局より支部長に配信し、確認することで合意。 2.各支部の2023年度12月までに中間報告と3月までの活動計画を確認。 3.26年秋期大会の開催を関東支部にて計画。 27年春期大会は北海道支部での開催を具体化検討。 4.2024年度の各表彰スケジュールを再確認。 5. ①2024年度東海支部長交代申請があり、理事会へ上申。 ②2024年度支部活動計画を昨年制定した長期ビジョンをもとに協議。
-----	------------	---	--

(10)男女共同参画委員会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第8回	2023年4月17日	1.第144回春期大会 2.第145回秋期大会 実施計画 3.2023年夏の学校 4.長期ビジョン 公開版・内部版 5.男女共同参画委員会引継事項 6.その他 ①ダイバーシティ・リレーエッセイ ②リコチャレ ③男女共同参画学協会連絡会	1.男女共同参画セッション パネラー久澤先生追加承認、託児室担当は任期制採用を協議。 2.第9回男女共同参画セッション担当決定。147回秋期大会は総務委員会とのコラボ企画を推進。 3.担当決定。ポスター、展示サンプルの準備、実験は金属学会と共同で実施。 4.公開版リーフレット作成・HP掲載。 5.資料に基づき報告され、全員承認。 6.その他 ①リレーエッセイの継続執筆を確認。 ②応援団体登録完了、応援団紹介メッセージ入力準備。 ③議事録に基づき報告、確認。
第1回	2023年7月18日	1.女子中高生・夏の学校出展進捗状況報告 2.第144回春期大会 報告 3.第145回秋期大会について 4.第146回春期大会 実施計画 5.長期ビジョン 6.その他 ①ダイバーシティ・リレーエッセイ ②次世代人材育成 ③若手の会活性化・OB/OG 会立ち上げ ④リコチャレ	1.8月5、6日開催・参画:担当決定 ・アルミ関連ポスター準備の推進。 ・実験準備の推進。 2.第144回春期大会 ・男女共同参画セッション(パネルディスカッション)※アンケート結果を確認。 ・若手の会・合同会合開催報告を確認。 ・女性会員の会開催報告を確認。 3.第145回秋期大会 ・男女共同参画セッション:担当決定。 ・若手の会・合同会合準備状況確認。 ・女性会員の会準備状況確認。 ・託児室:担当決定。 4.第146回春期大会 ・男女共同参画セッション 企画・担当協議。 5.内部版、公開版確認。内部版の継続。 6. ①7月号掲載 黒崎委員/寺田会員、10月号掲載 西田委員/関先生案以降計画的に執筆。 ②総務委員会・企画委員会と連携し計画 ③新規計画 ④継続対応
第2回	2023年10月4日	1.女子中高生・夏の学校報告 2.第145回秋期大会について 3.第146回春期大会 実施計画 4.その他	1.8月6日実施報告があり確認。 2.第145回秋期大会の企画を確認。 ・男女共同参画セッション内容を確認。 ・若手の会・合同会合の準備状況確認。 ・女性会員の会に準備状況確認。 ・託児室に関する状況と詳細を確認。 3.第146回春期大会の男女共同セッションの計画報告(名大2名の女子教授による講演)。 4.ダイバーシティ・リレーエッセイの継続執筆計画を確認。 ・次世代人材育成、リコチャレの検討・推進。
第3回	2024年1月30日	1.第145回秋期大会結果報告	1.第9回男女共同参画セッション、若手の会・合同会合・

		2.第 146、147 回大会計画 3.その他	見学会、女性会員の会の結果報告につき確認。 2. 第 10、11 回男女共同参画セッション、若手の会・合同会合、女性会員の会、託児室関連の計画・準備状況につき議論・確認。 3. 2024 年度女子中高生・夏の学校計画、ダイバーシティ・リレーエッセイ、総務委員会・企画委員会との連携事業につき議論。
--	--	--------------------------------	--

(11)選考委員会

会議名	開催年月日	議事事項
2023 年度軽金属躍進賞・奨励賞・女性未来賞選考委員会	2023 年 6 月 13 日	1. 選考委員長選任 2. 規程・運営細則の確認 3. 応募推薦状況 4. 選考方法並びに選考 5. 受賞候補の決定 6. 表彰理由書執筆者の選出
2023 年度軽金属論文賞・論文新人賞推薦委員会	2023 年 8 月 2 日	1. 規程・運営細則の確認 2. 論文賞の推薦・選考委員会への推薦確認 3. 論文新人賞の推薦・選考委員会への推薦確認
第 46 回高橋記念賞選考委員会	2023 年 9 月 1 日	1. 松田健二委員長とのメール審議のもと、投票用紙を開票し、4 名の授賞候補者を選定
2023 年度軽金属論文賞・論文新人賞選考委員会	2023 年 9 月 13 日	1. 二次選考の投票並びに論文賞・論文新人賞の最終選考決定(論文賞 3 編、ダブル受賞 1 編、論文新人賞 3 名) 2. 選考理由書の作成分担
第 58 回小山田記念賞選考委員会	2023 年 9 月 19 日	1. 選考委員長選任 2. 規程・運営細則の確認 3. 応募推薦状況について 4. 応募・推薦書の検討 5. 応募者からの技術プレゼンテーション 6. 選考方法と選考 ⇒ 1 件を選考 7. 表彰理由書の執筆者の選出
2023 年 度 Materials Transactions Review 投稿助成選考委員会	2023 年 9 月 25 日	1. Materials Transactions Review 投稿助成の選考決定、次回理事会上申 2. 選考理由書の執筆者分担
2023 年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会	2023 年 9 月 29 日	1. 規程およびこれまでの受賞者の確認 2. 候補者の確認 3. 選考方法の確認 4. 受賞候補決定、次回理事会上申 5. 表彰理由書執筆者の選出
2023 年度軽金属希望の星賞 2 次選考委員会	2024 年 1 月 11 日	1. 規程・運営細則の確認 2. 応募推薦状況について 3. 候補者 28 名全員を選考、次回理事会上申

[4]許可、認可、承認、証明に関する事項

年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5]契約に関する事項

年月日	契約内容	契約先・委託者
なし		

[6]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7]主務官庁からの連絡および報告事項

年月日	議 事 事 項	履 行 状 況
なし		

[8]その他重要事項 特になし

[9]会員動向

() 内は内数

	名誉会員	永年会員	個 人 会 員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
2024 年 4 月 1 日	47	85	1,369	271		1,640	1,772
2023 年 4 月 1 日	47	88	1,319	260	(5)	1,579	1,714
差引増減	-	△3	50	11		61	58

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
2024 年 4 月 1 日	422	97	803	47	1,369
2023 年 4 月 1 日	427	80	782	30	1,319
差引増減	△5	17	21	17	50

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口 数									年間購読
			10	8	6	5	4	3	2	1	合計	
2024 年 4 月 1 日	3	132	2	0	0	0	1	4	17	108	178	38
2023 年 4 月 1 日	3	132	2	0	0	0	1	4	17	108	178	38
差引増減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

[10]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。

【第 2 号議案】(審議事項)

2023 年度決算報告書

自 2023年4月 1日
至 2024年3月31日

一般社団法人 軽金属学会

東京都中央区銀座 4-2-15

I ① 貸借対照表

2024年3月31日現在

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	61,732,380	75,925,988	-14,193,608
出納現金	889,498	679,714	209,784
郵便振替口座	467,792	5,130,568	-4,662,776
普通預金	40,265,770	50,006,710	-9,740,940
定期預金	20,109,320	20,108,996	324
仮払金	2,536,388	1,000,000	1,536,388
大会運営準備金	2,536,388	1,000,000	1,536,388
流動資産合計	64,268,768	76,925,988	-12,657,220
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	14,977,468	16,267,329	-1,289,861
積立預金	925,892	963,362	-37,470
高橋記念賞基金	925,892	963,362	-37,470
国際会議積立金	0	0	0
特定資産合計	15,903,360	17,230,691	-1,327,331
(2) その他固定資産			
器具備品	1	1	0
敷金	2,806,680	2,806,680	0
その他固定資産合計	2,806,681	2,806,681	0
固定資産合計	18,710,041	20,037,372	-1,327,331
資産合計	82,978,809	96,963,360	-13,984,551
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	181,630	174,312	7,318
前受会費	95,000	87,000	8,000
預かり金	221,208	171,056	50,152
流動負債合計	497,838	432,368	65,470
2. 固定負債			
退職給付引当金	14,977,468	16,267,329	-1,289,861
固定負債合計	14,977,468	16,267,329	-1,289,861
負債合計	15,475,306	16,699,697	-1,224,391
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	925,892	963,362	-37,470
指定正味財産合計	925,892	963,362	-37,470
(うち特定資産への充当額)	925,892	963,362	-37,470
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	66,577,611	79,300,301	-12,722,690
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	67,503,503	80,263,663	-12,760,160
負債及び正味財産合計	82,978,809	96,963,360	-13,984,551

Ⅱ① 正味財産増減計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

ご参考資料

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	年度予算	増 減
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	0	265	-265	0	0
退職給付引当資産利息①	0	0	0	0	0
退職給付引当資産利息②	0	265	-265	0	0
受取会費	36,429,840	37,416,000	-986,160	36,127,000	302,840
正会員・学生会員会費	10,630,500	11,116,000	-485,500	10,127,000	503,500
維持会員会費	8,849,340	9,150,000	-300,660	8,950,000	-100,660
特別会員会費	14,500,000	14,500,000	0	14,500,000	0
研究部会会費	2,450,000	2,650,000	-200,000	2,550,000	-100,000
事業収益	22,589,967	56,841,980	-34,252,013	23,933,000	-1,343,033
講演会行事収入	5,446,280	5,824,290	-378,010	5,440,000	6,280
シンポ・セミナー等参加費	5,378,540	5,678,500	-299,960	4,920,000	458,540
シンポ・セミナー等懇親会費	43,500	0	43,500	320,000	-276,500
シンポ・セミナー等テキスト	24,240	145,790	-121,550	200,000	-175,760
大会事業収入	10,690,700	42,395,890	-31,705,190	9,668,000	1,022,700
国際会議参加費	0	31,165,000	-31,165,000	0	0
大会参加費	7,291,700	6,620,890	670,810	5,550,000	1,741,700
懇親会・見学会費	2,279,000	2,107,000	172,000	3,000,000	-721,000
技術懇談会参加費	130,000	50,000	80,000	0	130,000
大会広告・展示料	990,000	2,453,000	-1,463,000	1,118,000	-128,000
出版収入	6,452,987	8,621,800	-2,168,813	8,825,000	-2,372,013
会誌別刷	177,630	108,000	69,630	200,000	-22,370
会誌投稿料	1,880,000	3,885,000	-2,005,000	4,000,000	-2,120,000
会誌年間購読料	1,552,012	1,816,230	-264,218	1,675,000	-122,988
研究部会報告書	149,085	81,150	67,935	150,000	-915
一般出版物	109,690	140,220	-30,530	200,000	-90,310
広告掲載料	2,584,570	2,591,200	-6,630	2,600,000	-15,430
受取補助金	150,000	4,954,950	-4,804,950	2,100,000	-1,950,000
シンポ補助金	0	500,000	-500,000	1,000,000	-1,000,000
小山田記念賞補助金	500,000	300,000	200,000	500,000	0
その他補助金	-350,000	4,154,950	-4,504,950	600,000	-950,000
受取寄付金	717,478	14,807,994	-14,090,516	327,000	390,478
国際会議積立金寄付金	0	14,601,109	-14,601,109	0	0
高橋記念賞寄付金	37,478	26,885	10,593	27,000	10,478
その他寄付金	680,000	180,000	500,000	300,000	380,000
雑収益	574,979	517,726	57,253	511,000	63,979
預金利息	1,072	889	183	1,000	72
その他雑収入	573,907	516,837	57,070	510,000	63,907
経常収益計	60,462,264	114,538,915	-54,076,651	62,998,000	-2,535,736

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

ご参考資料

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	年度予算	増 減
(2) 経常費用					
事業費	52,457,863	94,119,851	-41,661,988	65,219,000	-12,761,137
人件費	14,889,824	14,179,502	710,322	13,968,000	921,824
給与等	12,183,180	11,629,685	553,495	11,645,000	538,180
福利厚生費	2,147,647	2,039,661	107,986	1,888,000	259,647
退職給付費用	558,997	510,156	48,841	435,000	123,997
懇親会費	4,633,718	6,674,034	-2,040,316	6,330,000	-1,696,282
行事諸費	1,115,701	1,779,872	-664,171	4,689,000	-3,573,299
会議費	662,709	380,886	281,823	1,543,000	-880,291
旅費交通費	2,772,717	2,114,474	658,243	5,762,000	-2,989,283
減価償却費	0	0	0	0	0
通信費	779,952	415,815	364,137	533,000	246,952
運送費	2,225,368	2,505,032	-279,664	2,566,000	-340,632
消耗品費	20,113	158,797	-138,684	204,000	-183,887
印刷・製本費	11,234,739	11,514,949	-280,210	13,930,000	-2,695,261
原稿・査読料	940,456	1,095,035	-154,579	1,098,000	-157,544
講演料	2,123,553	1,267,076	856,477	2,783,000	-659,447
研究事業費	4,146,029	1,627,109	2,518,920	4,115,000	31,029
表彰関係費	1,698,930	807,188	891,742	1,670,000	28,930
若手・女性の会	277,207	375,559	-98,352	800,000	-522,793
若手の会	32,910	44,668	-11,758	200,000	-167,090
女性の会	244,297	330,891	-86,594	600,000	-355,703
借室料	1,298,374	7,621,610	-6,323,236	1,811,000	-512,626
その他賃借料	6,820	4,099,159	-4,092,339	600,000	-593,180
業務委託料	3,185,503	34,880,598	-31,695,095	1,066,000	2,119,503
雑費	446,150	2,623,156	-2,177,006	1,751,000	-1,304,850
管理費	20,677,091	15,917,101	4,759,990	18,272,000	2,405,091
人件費	7,025,580	6,382,870	642,710	6,273,000	752,580
給与等	5,798,951	5,224,931	574,020	5,231,000	567,951
福利厚生費	975,487	928,740	46,747	848,000	127,487
退職給付費用	251,142	229,199	21,943	194,000	57,142
委員会等会議費	248,932	29,750	219,182	200,000	48,932
委員会等旅費交通費	2,040,682	447,225	1,593,457	1,000,000	1,040,682
通信費	758,992	948,441	-189,449	1,000,000	-241,008
その他管理費	10,073,554	7,689,129	2,384,425	9,387,000	686,554
借室料	3,793,192	3,671,813	121,379	3,750,000	43,192
その他賃借料	1,990,440	1,722,907	267,533	1,720,000	270,440
事務委託費	400,000	400,000	0	400,000	0
消耗品費	418,953	355,468	63,485	500,000	-81,047
印刷費	186,230	185,130	1,100	200,000	-13,770
什器備品費	50,600	68,818	-18,218	50,000	600
ホームページ作成・維持管理費	534,080	234,080	300,000	235,000	299,080
諸会費	67,261	72,313	-5,052	73,000	-5,739
租税公課	2,632,798	978,600	1,654,198	2,459,000	173,798
雑費	529,351	419,686	109,665	412,000	117,351
経常費用計	73,134,954	110,036,952	-36,901,998	83,491,000	-10,356,046
評価損益等調整前当期経常増減額	-12,672,690	4,501,963	-17,174,653	-20,493,000	7,820,310
評価損益等計	0	0	0		0
当期経常増減額	-12,672,690	4,501,963	-17,174,653	-20,493,000	7,820,310

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入額			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	-50,000	0	-50,000
[本部から各事業へ繰入]	-50,000	0	-50,000
当期一般正味財産増減額	-12,722,690	4,501,963	-17,224,653
一般正味財産期首残高	79,300,301	74,798,338	4,501,963
一般正味財産期末残高	66,577,611	79,300,301	-12,722,690
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	0	0
国際会議積立金	0	0	0
特定資産運用益	8	230	-222
高橋記念賞基金預金利息	8	8	0
国際会議積立金預金利息	0	222	-222
一般正味財産への振替額	37,478	14,627,994	-14,590,516
寄付金	37,478	14,627,994	-14,590,516
当期指定正味財産増減額	-37,470	-14,627,764	14,590,294
指定正味財産期首残高	963,362	15,591,126	-14,627,764
指定正味財産期末残高	925,892	963,362	-37,470
III 正味財産期末残高	67,503,503	80,263,663	-12,760,160

ご参考資料

単位:円

年度予算	増 減
	0
	0
0	0
0	-50,000
	-50,000
-20,493,000	7,770,310
79,300,301	0
58,807,301	7,770,310
0	0
0	0
0	8
0	8
0	0
27,000	10,478
27,000	10,478
-27,000	-10,470
963,362	0
936,362	-10,470
59,743,663	7,759,840

Ⅲ 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
定額法によっている。
- (2) 引当金の計上基準
退職給付引当金は、職員の退職金の支給に備えるため、自己都合退職による期末要支給額を計上している。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

単位:円

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	16,267,329	810,139	2,100,000	14,977,468
積立預金	963,362	8	37,478	925,892
高橋記念賞基金	963,362	8	37,478	925,892
国際会議積立金	0	0	0	0
特定資産 合計	17,230,691	810,147	2,137,478	15,903,360

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

単位:円

1 科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産から充当)	(うち一般正味 財産から充当)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	14,977,468			14,977,468
積立預金	925,892	925,892	0	0
高橋記念賞基金	925,892	925,892		
特定資産 合計	15,903,360	925,892	0	14,977,468

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

単位:円

1 科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	343,440	343,439	1
合 計	343,440	343,439	1

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

単位:円

補助金等の名称	交 付 者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の 記載区分
補助金						
シンボ・セミナー補助金	(公財) 軽金属奨学会		500,000	500,000	0	一般正味財産
補助金 計		0	500,000	500,000	0	
寄付金						
高橋記念賞寄付金	(株)アーレスティ	963,362	8	37,478	925,892	指定正味財産
寄付金 計		963,362	8	37,478	925,892	
合 計		963,362	500,008	537,478	925,892	

- ① 高橋記念賞寄付金の当期増加額 8 円は基金の預金利息である。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

単位:円

内 容	金 額
経常収益への振替額 高橋記念賞基金	37,478
合 計	37,478

IV 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、「財務諸表に対する注記」に記載しているので内容の記載を省略する。
なお、基本財産はありません。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首 残高	当期 増加額	当期減少額		期末 残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	16,267,329	810,139	2,100,000	0	14,977,468

独立監査人の監査報告書

令和6年4月24日

一般社団法人軽金属学会
会長 平野 清一 殿

沼口公認会計士事務所
東京都品川区
公認会計士

沼口 哲也

監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に準じて、一般社団法人軽金属学会の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、

その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事

項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2024年4月26日

監査報告書

一般社団法人軽金属学会
会長 平野清一 様

一般社団法人軽金属学会
監事 中沢 靖 
監事 高山 善匡 

第13事業年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の事業報告、計算書類、これらの付属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、監事 中沢 靖は会計帳簿を中心に、監事 高山 善匡 は理事の職務執行状況、事業内容を中心に監査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1)事業報告及びその付属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2)理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3)計算書類とその付属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

【第3号議案】(報告事項)

2024年度事業計画書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

2050年に向けた長期ビジョン・ロードマップを念頭に、本部の理事会および委員会、各支部の活動をベースに、対面およびWEBも活用しながらいっそうのコミュニケーションを図り軽金属に関する事業を進める。中心となる研究活動では、基礎技術の継承および深堀、新たな技術の取込を推進し、世の中の変化に対応した活動に取り組む。脱炭素化に関連した研究部会や先行研究部会の促進、例えば水素やアンモニアなどの次世代エネルギー、熱に関わる課題を取り上げ、生産技術者の学会参加勧誘を推進する。従来から重きを置いてきた産学連携では基礎研究とものづくりの課題を連携するフレームワークの構築も進める。USAアトランタで今年度開催のICAA19(第19回アルミニウム合金国際会議)への参加を通じての海外研究者との交流をはじめ、国際連携強化なども継続し、本会のプレゼンス向上を図る。

正会員の増加を進め、2050年には会員2000人を目標とし、若手研究者、女性研究者、支部会員、生産技術者等の育成、支援、連携強化し、学会の多様性を促進する。次世代の技術者、研究者を育成する活動を継続し、例えば小中高生の体験プログラムなどを活用していく。マンネリ化している活動や手続きは合理化し、次の世代により良い体制づくりを進め、会員から魅力ある学会運営に努める。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋大会の開催

1)第146回春期大会(ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	:2024年5月10-12日
会場	:名古屋大学 東山キャンパス
実行委員長	:小橋 眞(名古屋大学)
定時総会	:2024年5月10日 名古屋大学・東山キャンパス
研究発表講演	:2024年5月11-12日
表彰式	:2024年5月10日
懇親会	:2024年5月11日 名古屋大学・東山キャンパス 生協南部食堂
機器・カタログ展示	:2024年5月11-12日
企業招待講演	:2024年5月11日
男女共同参画セッション	:2024年5月11日 「研究力強化を目指した子育て共助ネットワークから見えたもの」
市民フォーラム	:2024年5月10日 「宇宙線ミュオンイメージングによるクフ王ピラミッドの新空間の発見」

2)第147回秋期大会(ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	:2024年11月8-10日
会場	:群馬大学 太田キャンパス
実行委員長	:半谷禎彦(群馬大学)
研究発表講演	:2024年11月9-10日
表彰式	:2024年11月8日
懇親会	:2024年11月9日
機器・カタログ展示	:2024年11月9-10日・
企業招待講演	:2024年11月9日
男女共同参画セッション	:2024年11月9日
市民フォーラム	:2024年11月8日

2. シンポジウム、セミナー、見学会等の開催

参加者の利便性を考え、オンライン、ハイブリッド方式により、以下を開催する。また、オンライン開催したシンポジウムやセミナーの講演録画のアーカイブ化による会員サービス・有効利用方法を検討する。

- ・第132回シンポジウム「カーボンニュートラルに対応する自動車へのアルミニウム活用最前線」(2024年8月2日)
- ・第133回シンポジウム「アルミニウム製品の生産を効率化するCAE解析技術の現状と今後(仮題)」(2024年秋予定)
- ・第134回シンポジウム「アルミニウムの水素脆化・応力腐食割れの最前線」(2024年秋予定)
- ・他カーボンニュートラル、生産技術をテーマとしてシンポジウムを企画
- ・軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」(2024年11月21日～22日)
- ・第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第14回(2024年12月)
- ・第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第13回(2025年1月)
- ・第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第11回(2025年2月)
- ・中堅企業向けセミナー、講習会(支部単位で実施)

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1)ICAA19(アルミニウム合金国際会議)への国際委員の参画

2024年6月23日～27日にアトランタで開催されるICAA19の学会ホームページへの掲載、会員への案内と参加を促し、また、

国際委員の参画により、次回以降への対応について検討し、国際交流を推進する。

2)ALMA(Asian Light Metals Association)

COVID-19 の影響を受け、2022 年開催予定であった ALMA Forum & Meeting を 2023 に開催。ALMA Meeting において開催時期を偶数年とすることで共通認識し、次回は 2026 年に開催することで合意した。ALMA2026 に向けたテーマ(環境、エネルギー)、参加国、開催時期を検討し、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから軽金属の学術研究・技術開発に関する動向や最新のトピックスを講演。また、アジア地区の軽金属関係の研究者・技術者のネットワークづくりを強化する。

3)タイ技術講習会

2023 年 9 月に開催したタイ技術講習会において、関係者との協議の上、同講習会を 2 年毎に継続的に開催することを決定した。タイにおけるアルミニウム産業の技術的なニーズに対応すべく、板、押出、鍛造、鋳造の生産技術を中心に接合や表面処理等の要素技術について内容を充実させるべく、タイ技術講習会 2025 に向け、講義内容、時期、講師を企画する。

4)学会の国際化、国際連携、国際ワークショップ

国際ワークショップを計画し、海外の研究者と取り組んでいる共同研究の成果などを広く紹介すると共に関連分野の研究者とディスカッションする機会を創出し、軽金属に関連する国際連携活動の一助とする。また、前2回の「欧州最大の応用研究機関Fraunhoferによる産学連携の仕組み及び最新の応用研究」に引き続き、国際ワークショップを企画・開催し、意見交換を行う。

5)国際賞の検討

海外との連携強化、海外への情報発信・共有による本学会のグローバル化とインパクトファクター向上のための国際賞設立を検討する。国際賞の位置づけを協議し、方針を明確化したうえで軽金属奨学会とも連携をしつつ、慎重に進めていく。

2. 産学官の連携

参与会を年2回開催し、産学官の密接な連携のもとに、軽金属の将来に対する意見交換を行い、特にユーザー側からの助言を得る。特に2050年カーボンニュートラルに向けた次世代エネルギーをテーマに具体的な対応につき研究機関や企業を訪問する。2024年7月には産業技術総合研究所・福島、11月は東邦ガスの見学会および講演会開催を計画する。

3. 他学協会との連携

日本学術会議、材料連合協議会幹事会、材料戦略委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、軽金属奨学会、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本鉄鋼協会、日本機械学会、日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本チタン学会、軽金属溶接協会など、他学協会との講演発表、シンポジウムの共催、協賛などの協力を積極的に行う。

また、男女共同参画学協会連絡会の夏の学校、シンポジウムに積極的に参画し、軽金属学会紹介パネル、軽金属製品展示、軽金属を利用した実験などを行う。

軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋講演大会での優秀ポスター発表賞表彰を継続する。さらに異材接合委員会との意見交換を行い、将来のための異種金属接合に向けた技術およびメカニズムの解明を推進し、それぞれの方針を明確化することで、研究部会活動につなげる活動を推進する。また、2021年度に軽金属奨学会の協力を得て始めた共同刊行誌Mater. Trans.のインパクトファクター向上を目的とした投稿助成事業を継続し、内外の著名な研究者の解説論文投稿勧誘を推進する。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」の刊行

本年度は第74巻4-12号、第75巻1-3号までの12冊を刊行する。第74巻4号から「マグネシウム合金の基礎と応用」の連載講座をスタートし、第77巻2号まで22回の連載予定である。また、毎年9号ではミニ特集として「アルミニウムによる脱炭素化社会に向けた取り組み」を継続的に掲載する。第75巻2号は「7000系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」、第75巻3号は「軽金属の加工熱処理工程における組織形成」特集号の刊行を計画し、それぞれ2024年7月と8月を締切に原稿を募集する。

2. 研究部会報告書の刊行

2022年度終了の2部会「アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会」「高強度アルミニウム合金研究部会」の成果報告書を刊行する。2023年度に終了する6部会「押出材組織に起因する欠陥検討部会」「アルミニウム中の水素と材料物性研究部会」「汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会」「アルミニウム接着接合研究部会」「加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会」「LPSO/MFS構造材料研究部会」は2025年3月31日を目標に成果報告書を刊行する。

3. 研究部会報告書、シンポジウム・セミナーテキスト、概要集の電子書籍刊行、研究部会報告書やテキストの無料閲覧

第135回秋期大会から開始した大会概要集の電子化を第146回春期大会、第147回秋期大会も継続する。また、ハイブリッド式で開催したシンポジウムやセミナーの講演録画・テキストのアーカイブ化などにより、会員サービス・有効利用方法を検討する。会員特典として、2023年6月から開始した研究部会報告書やシンポジウム・セミナーテキストなどの刊行物の学会ホームページ会員マイページでの無料閲覧サービスを継続する。

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

1. 研究部会

2024年度は後継部会として4部会、先行研究部会から研究部会を新設する3部会の活動を開始する。この結果、既設6部会

と2023年完了予定のマテリアルズ・インフォマティクス研究部会を1年延長し、合計14部会で活動する。

	研 究 部 会 名	課 題
1	マテリアルズ・インフォマティクス研究部会【1年延長】	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算する。
2	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得とともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を目的とする。
3	6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やB'相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。
4	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会	製造コスト削減・省エネ活動や少子高齢化、人手不足対策として、属人性排除、省人化、設備・機械の自動化が急務である。本部会ではアルミニウム圧延における各種計測機器・センサーに焦点を絞り、各社の活用・改善事例の紹介とあるべき姿と現状との乖離を議論し、最終的にはデジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化につながる研究部会としたい。
5	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会	焼入れおよび時効条件が微視組織や強度、耐SCC性へ及ぼす影響について、大学および企業の最先端の研究技術の集結により、電子論を含む新たな視点から検討し、時効硬化メカニズムの理解を達成することを目的とする。
6	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会	前研究部会ではアルミニウム合金 A6063の550℃近辺の圧縮試験法の検討およびアルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式の構築などを行ってきた。高温下では端部の潤滑プールなどを考慮したが、圧盤一試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの問題が解決できていない。この解決にはこれらの影響をさらに軽減する新たな試験方法の開発、もしくは解析における補正の方法を詳細に検討する必要がある。
7	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会	アルミナ-シリカ系耐火物の劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積する。従来、十分に評価されていなかった溶湯流動による耐火物溶損、アルミナ質以外の酸化物、非酸化物系耐火物の劣化挙動も調査対象に含まれる。将来的なゼロエミッション電源を鑑み、いずれの評価も電気抵抗加熱を基本とする。
8	押出加工中の溶着制御検討技術研究部会【後継】	アルミニウム合金押出成形材は、特に溶着部の欠陥を予測し制御することが必要であるが、生産現場での対応は十分ではない。押出合金として適用される6000系および7000系合金の基礎データも不十分である。そこで、A6063合金における溶着状態に及ぼすポートやチャンバー形状の影響を分析するとともに、A7003や7N01合金での溶着不良となる流動状態を調査する。
9	アルミニウム合金中の水素評価研究部会【後継】	アルミニウム合金の特性向上に焦点を絞り、材料物性に及ぼす水素の影響を実験やシミュレーションから、高精度でかつ多角的に評価・解明する。また、水素や水素に関連する欠陥を除去、ないしは制御による特性改善を試みる。水素とアルミニウムの関係の基礎事項や最新の研究成果の情報交換・収集を通じてそれらの研究活動を共有し、水素の影響を解明する。
10	マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会【後継】	マグネシウム合金開発への、マテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化とこれらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウムの機械的特性、成形性、耐食性等を対象として、データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。加えて、国内のマグネシウム産業のロードマップの作成等も進める。
11	キンク研究部会【後継】	長周期積層構造型マグネシウム合金がキンク変形によって強化することが見出された。最近では、Mg基、Al基、Ti基の合金創製が行われ、長周期積層構造以外の硬質/軟質層状物質でもキンク強化することが明らかになった。今後、キンク強化する硬質/軟質層状物質の拡大と実験・観察・計算科学によるキンク強化メカニズムの解明ならびにキンク強化理論の構築が必要である。そこで、キンク強化する材料の創製をさらに推進し、キンク強化メカニズムの解明とキンク強化理論の構築を行い、キンク強化法の学理構築を目指す。
12	アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会【先行⇒新設部会】	サーキュラーエコノミーの実現に向けたアルミニウム合金のリサイクルでは、不純物元素の制御が不可欠である。そのためには、不純物除去や不純物制御による許容量拡大が必要となる。よって、不純物増加に伴う材料特性への影響および改善方法について、晶出物等のマイクロ組織と結びつけ、これらの課題の明確化を目的とする。
13	アルミニウム屑の合金判別研究部会【先行⇒新設部会】	アルミニウムのスクラップ利用で最も問題となるのは、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金の混合による不純物元素の増加であり、その抑制にはスクラップ(固相状態)で適切な選別が必須である。よって、アルミニウム合金判別のための基礎データを構築し、選別技術発展の礎を築くことを目的とする。
14	アルミニウム溶解工程におけるMg,Fe低減技術研究部会【先行⇒新設部会】	CNへの対応として市中スクラップの利用要求が高まる中、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe量が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。よって、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術として、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去について基礎原理および生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。

2. 先行研究部会

昨年度発足した先行研究部会(9部会)のうち、3部会は研究部会として新設し活動する。他6部会については1年延長し、研究部会新設に向けさらに研究内容を精査し、課題の明確化と研究部会を新設した際の取組を具体化していく。

	先行研究部会名	1年延長理由
1	サーマルマネジメント材料技術先行研究部会	生産技術系部会として、熱エネルギーに関わる様々な問題を取り扱うサーマルマネジメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムなどの軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化するため議論した。その結果、対象材料の選定、高熱伝導化、異方性の付与、機械的性質と熱伝導性の両立、界面熱伝達率の評価法の確立および学術的解析、金属材料や複合材料の組織制御、材料表面の形態などを重要課題とした。よって、一年延長し、テーマの具体化、部会内での協力体制の確立、共通認識の形成、ニーズに適した活動などを具体化する。
2	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金先行研究部会	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金の評価や評価基準設定の必要性を議論し、その結果、水素材料物性部会(2023年度が最終年度)の後継部会となって研究部会へ移行することは、困難であると考えた。一方、当先行研究部会主導で、2024年1月19日に第129回シンポジウムを企画・開催、参加者多数で質疑も多かったことからニーズの高まりを実感し、現段階で研究部会設立の可否を決定するには部会委員で十分な議論ができていないことから、1年延長する。
3	アルミニウム表面処理廃液課題検討先行研究部会	アルミニウム表面処理における廃液処理の課題と解決法を調査し、次の研究部会の実施内容を確定するため、昨年度は、実施しているアルミニウムの表面処理の確認、現状の問題確認、今後の方針を議論し、また、方針決定のためのアンケートを実施した。アルミニウムの表面処理は化成処理や陽極酸化、めっき、アルカリ洗浄と幅広い。そのため、表面処理で排出される溶液も多種多様となっているため、1年延長し、研究部会新設に向け実施内容及び方針を確定する。
4	異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討先行研究部会	異種金属接合について、材料選定、接合技術および条件、適切な接合法が重要であり、さらに、生産性や接合信頼性を確保するには、接合界面形成メカニズムの解明が重要となる。そこで、対象とする材料の選定、接合方法、評価法などを協議した。接合法や評価手法について様々ある中で選定することができなかったため、1年延長し、実用構造体を考慮した材料、接合技術の選定とともに生産性を考慮した評価法を明確化し、次年度における研究部会新設を目指す。
5	アルミニウム産業に関する工学的かつ経済学的な計量計算先行研究部会	脱炭素社会に向け、アルミニウムの軽量性、リサイクル性等を訴求するため、工学的かつ経済学的に検証されたアルミニウムの特質に関する数値の確立のため、アルミニウム産業における計量化の方法論の確立を目指し、①日本のアルミ全体でのマテリアルフローの計量計算の手法の検討、②アルミのCO ₂ 負荷量の計量化について、新地金、再生地金及び圧延品等のLCI計算の蓄積、③主要な製品3品目(EV、サッシ、エアコン)について、CO ₂ 削減効果の計量化を進め、研究部会設立に向けたより一層の情報入手が必要なため、1年延長する。
6	次世代アルミニウム溶解技術先行研究部会	溶解燃料として水素やアンモニア、電気等が提案されているがそれらを用いた時の被溶解材や炉体への影響、その他の導入においての課題などが明確ではない。対象となる非化石燃料の推進は業過でも課題となっているが、その影響は明確でなく、文献調査などの情報の確保によるメリット、デメリットを精査し、化石燃料との違いを明確化する必要がある。そのため、1年延長し、必要な情報を習得しつつ、研究部会として取り組むべき課題を精査する。

3. 日本アルミニウム協会とのロードマップ更新協業

日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」改定に合わせ、軽金属学会で作成したサイエンスロードマップや昨年作成した長期ビジョン・ロードマップを更新する。

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

1)第27回軽金属学会賞、2)第26回軽金属学会功労賞、3)第22回軽金属功績賞、4)2024年度軽金属論文賞、5) 2024年度軽金属論文新人賞、6)第59回小山田記念賞、7)第47回高橋記念賞、8)第42回軽金属奨励賞、9)第23回軽金属躍進賞、10)第16回軽金属女性未来賞、11)2024年度軽金属希望の星賞、12)軽金属学会企業奨励賞の選考および表彰を行う。表彰式は、1)-3)は第146回春期大会の2024年5月10日(金)に、4)-10)を第147回秋期大会の2024年11月8日(金)に行う。11)は2025年2月末までに盾を各大学へ送付し、卒業式・修了式など相応しい時期に表彰する。12)も年度末に各支部にて行う。また、春秋大会において、それぞれ優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞の表彰を行う。

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第6号)

1. 人材育成

大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与による啓蒙企画、軽金属科学実験室WEBサイトの実験事例拡充、担当教員・小中高生対象の工場見学会、大学学生への維持会員企業採用情報を提供するWEBサイト(ライトメタルリクルート)運営、WEBサイトの研究室/研究機関紹介、アルミニウムの製造工程、バーチャル工場見学の掲載件数拡充に加え、対象を小学生まで拡大し、WEBサイトから情報発信する。日本アルミニウム協会の協力のもと、維持会員企業のインターンシップ募集情報のWEB掲載を実施する。また、各支部においては講演会・ポスター発表(高校生も含む)など、若手人材育成に関わる事業を実施する。また、企業の生産技術者の表彰制度検討を行う。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

春秋大会時に、若手の会、女性会員の会を開催する。春秋大会時に男女共同参画セッションを開催し、軽金属学会の男女

共同参画に寄与する啓発、普及活動を実施する。第146回春期大会では、第10回男女共同参画セッションにて「研究力強化を目指した子育て共助ネットワークから見えたもの」をテーマに名古屋大学上川内あづさ教授、田川美穂教授を講師とし、研究活動、子育ての工夫、研究者同士のネットワークの有用性を講演。若手の会では、第2回見学会を名古屋近郊の工場や施設を利用し実施する。第147回秋期大会では若手会員向けの企画を検討する。これらを通じて、若手会員、女性会員の増強につなげる。また、第145回から懇親会への子ども同伴を開始し、第146回ではノンアルコールエリアを設定し、子育て中の若手研究者への親子同伴参加の試行を継続する。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援」を計画する。各支部にある公設試験研究機関などの協力により、中堅企業との交流を深め、当会の認知度を高め、支部セミナー、企業見学会、WEB技術相談室、研修会、出前講座、HP質問コーナーなどにより、中堅企業の人材育成や課題解決を支援する。また、春秋講演大会においても、企業研究会・企業招待講演を実施し、二次加工、ユーザー企業と情報交換する。優れた製品開発、技術開発を行った中堅企業の企業奨励賞表彰も実施する。

4. 支部活動

1)北海道支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

①支部理事会、支部評議員会(5月にハイブリッドで開催予定)

①支部講演大会 2024年10月(札幌)

②講演会 随時

③他学協会支部講演大会等への協賛

・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同

サマーセッション(7月)と講演大会(2005年1月)に協賛

・工場見学会とセミナーの協賛

(一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催、

工場見学会と2024年北海道夏期セミナーに協賛

3. 人材育成

①若手育成支援事業

4. 表彰関係

①軽金属希望の星賞一次選考、推薦

②学生優秀講演賞

5. 維持会員加入勧誘活動

①訪問活動継続

2)東北支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

役員会(2回)

①主催講演会(2回)

②共催・後援行事(3回)

①東北大学金属材料研究所ワークショップ/日本バイオマテリアル学会

東北ブロック交流会(仙台市)若手支援

①高橋記念賞推薦

②軽金属希望の星賞一次選考、推薦

③軽金属学会賞、軽金属学会功労賞推薦

4. 表彰関係

①イブニングセミナー開催

5. 維持会員加入勧誘活動

②軽金属学会企業奨励賞推薦

3)関東支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部運営委員会ほか

第1回運営委員会・大会実行委員会(4月24日、ハイブリッド形式)

総会(9月上旬予定、対面、工学院大学)

2. 講演会等

①第147回秋期大会(群馬大学・太田キャンパス)の実行援助

3. 人材育成

①第10回若手研究者ポスター発表会(9月上旬予定、対面、工学院大学)

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④関東支部功労賞選考

5. 維持会員加入勧誘活動

①セミナー、訪問活動継続

4)北陸支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

①定例幹事会(2回:4月9日、9月予定)

①春期講演会(6月20日 於 富山大学)

②秋期講演会(11月 ウイング・ウイング高岡予定)

3. 人材育成

①幹事研修会

②若手育成支援事業 6月予定

4. 表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

5)東海支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

2. 講演会等

3. 人材育成

4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

①総会

②理事会(3回、第1回は運営委員会も兼ねる)

①第146回春期大会(名古屋大学・東山キャンパス)の実行

②講演会(1回)

③研究部会(航空機材料部会)

①若手ポスター発表会

②若手の会(軽進会)

③女性会員の会

④中・高生向け工場見学会

①高橋記念賞推薦

②軽金属希望の星賞一次選考、推薦

③軽金属企業奨励賞推薦

①支部セミナー

②TECH Biz2024: 支部活動展示、講演会

6)関西支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

2. 講演会等

3. 人材育成

4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

①支部理事会(2回)

②支部幹事会(2回)

①支部シンポジウム

①関西軽金属サマースクール

②若手研究者・院生による研究発表会

③大学院生フィールドワーク助成プログラム

①軽金属学会功労賞推薦

②高橋記念賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④軽金属企業奨励賞推薦

①勧誘活動継続

②出前講座

7)中国四国支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

2. 講演会等

3. 人材育成

4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

①役員会

①第16回支部講演大会(広島大学)

②研究会(2回)

③若手フォーラム

①高校生のポスター発表(岡山)

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考、授与

①中堅企業R&D支援プログラム、講演会開催

②訪問活動継続

8)九州支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合

2. 講演会等

3. 人材育成

4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

①役員会(2回)

②例会(2回)

第111回役員会・例会(7月 熊本大学)

第112回役員会・例会(3月 九州柳河精機)

③第148回春期講演大会実行委員会(3回)

①合同学術講演会共催(6月九州大学)

①若手研究発表会(7月)

②中堅企業支援支部セミナー(7月、3月)

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰

①訪問活動継続

②中堅企業支援支部セミナー

【第 4 号議案】(報告事項)

2024 年度収支予算書

自 2024年4月 1日
至 2025年3月31日

一般社団法人 軽金属学会

東京都中央区銀座 4-2-15

I 収支予算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

参考資料

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	2023年度実績	増 減
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	0	0	0	0	0
退職給付引当資産利息②	0	0	0	0	0
受取会費	40,900,000	36,127,000	4,773,000	36,429,840	4,470,160
正会員・学生会員会費	10,300,000	10,127,000	173,000	10,630,500	-330,500
維持会員会費	8,850,000	8,950,000	-100,000	8,849,340	660
特別会員会費	14,500,000	14,500,000	0	14,500,000	0
その他の会費	7,250,000	2,550,000	4,700,000	2,450,000	4,800,000
事業収益	20,245,000	23,933,000	-3,688,000	22,589,967	-2,344,967
講演会行事収入	4,800,000	5,440,000	-640,000	5,446,280	-646,280
シンポ・セミナー等参加費	4,500,000	4,920,000	-420,000	5,378,540	-878,540
シンポ・セミナー等懇親会費	100,000	320,000	-220,000	43,500	56,500
シンポ・セミナー等テキスト	200,000	200,000	0	24,240	175,760
大会事業収入	9,400,000	9,668,000	-268,000	10,690,700	-1,290,700
国際会議参加費	0	0	0	0	0
大会参加費	5,640,000	5,550,000	90,000	7,291,700	-1,651,700
懇親会・見学会費	3,160,000	3,000,000	160,000	2,279,000	881,000
技術懇談会参加費	0	0	0	130,000	-130,000
大会広告・展示料	600,000	1,118,000	-518,000	990,000	-390,000
出版収入	6,045,000	8,825,000	-2,780,000	6,452,987	-407,987
会誌別刷	130,000	200,000	-70,000	177,630	-47,630
会誌投稿料	1,900,000	4,000,000	-2,100,000	1,880,000	20,000
会誌送料・購読料	1,215,000	1,675,000	-460,000	1,552,012	-337,012
研究部会報告書	120,000	150,000	-30,000	149,085	-29,085
一般出版物	80,000	200,000	-120,000	109,690	-29,690
広告掲載料	2,600,000	2,600,000	0	2,584,570	15,430
受取補助金	500,000	2,100,000	-1,600,000	150,000	350,000
シンポ補助金	0	1,000,000	-1,000,000	0	0
小山田記念賞補助金	500,000	500,000	0	500,000	0
その他補助金	0	600,000	-600,000	-350,000	350,000
受取寄付金	330,000	327,000	3,000	717,478	-387,478
高橋記念賞寄付金	30,000	27,000	3,000	37,478	-7,478
国際会議積立寄付金	0	0	0	0	0
その他寄付金	300,000	300,000	0	680,000	-380,000
雑収益	361,000	511,000	-150,000	574,979	-213,979
預金利息	1,000	1,000	0	1,072	-72
その他雑収入	360,000	510,000	-150,000	573,907	-213,907
経常収益計	62,336,000	62,998,000	-662,000	60,462,264	1,873,736

一般社団法人 軽金属学会			単位:円		単位:円	
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	2023年度実績	増 減	
(2)経常費用						
事業費	59,724,000	65,219,000	-5,495,000	52,457,863	7,266,137	
人件費	14,806,000	13,968,000	838,000	14,889,824	-83,824	
給与等	12,131,000	11,645,000	486,000	12,183,180	-52,180	
福利厚生費	2,128,000	1,888,000	240,000	2,147,647	-19,647	
退職給付費用	547,000	435,000	112,000	558,997	-11,997	
懇親会費(大会、講演会等)	6,354,000	6,330,000	24,000	4,633,718	1,720,282	
行事諸費	1,875,000	4,689,000	-2,814,000	1,115,701	759,299	
会議費	1,025,000	1,543,000	-518,000	662,709	362,291	
旅費交通費	4,817,000	5,762,000	-945,000	2,772,717	2,044,283	
通信費	852,000	533,000	319,000	779,952	72,048	
運送費	3,105,000	2,566,000	539,000	2,225,368	879,632	
消耗品費	219,000	204,000	15,000	20,113	198,887	
印刷・製本費	13,147,000	13,930,000	-783,000	11,234,739	1,912,261	
原稿・査読料	1,533,000	1,098,000	435,000	940,456	592,544	
講演料	792,000	2,783,000	-1,991,000	2,123,553	-1,331,553	
研究事業費	4,345,000	4,115,000	230,000	4,146,029	198,971	
表彰関係費	1,690,000	1,670,000	20,000	1,698,930	-8,930	
若手・女性の会	1,091,000	800,000	291,000	277,207	813,793	
若手の会	300,000	200,000	100,000	32,910	267,090	
女性の会	791,000	600,000	191,000	244,297	546,703	
借室料	1,292,000	1,811,000	-519,000	1,298,374	-6,374	
その他賃借料	0	600,000	-600,000	6,820	-6,820	
業務委託料	2,273,000	1,066,000	1,207,000	3,185,503	-912,503	
雑費	508,000	1,751,000	-1,243,000	446,150	61,850	
管理費	23,234,000	18,272,000	4,962,000	20,677,091	2,556,909	
人件費	8,825,000	6,273,000	2,552,000	7,025,580	1,799,420	
給与等	7,441,000	5,231,000	2,210,000	5,798,951	1,642,049	
福利厚生費	1,133,000	848,000	285,000	975,487	157,513	
退職給付費用	251,000	194,000	57,000	251,142	-142	
委員会等会議費	249,000	200,000	49,000	248,932	68	
委員会等旅費交通費	2,447,000	1,000,000	1,447,000	2,040,682	406,318	
通信費	1,130,000	1,000,000	130,000	758,992	371,008	
その他管理費	10,064,000	9,387,000	677,000	10,073,554	-9,554	
借室料	3,785,000	3,750,000	35,000	3,793,192	-8,192	
その他賃借料	1,990,000	1,720,000	270,000	1,990,440	-440	
事務委託費	400,000	400,000	0	400,000	0	
消耗品費	419,000	500,000	-81,000	418,953	47	
印刷費	186,000	200,000	-14,000	186,230	-230	
什器備品費	51,000	50,000	1,000	50,600	400	
ホームページ作成・維持管理費	534,000	235,000	299,000	534,080	-80	
諸会費	67,000	73,000	-6,000	67,261	-261	
租税公課	2,632,000	2,459,000	173,000	2,632,798	-798	
雑費	519,000	412,000	107,000	529,351	-10,351	
経常費用計	82,958,000	83,491,000	-533,000	73,134,954	9,823,046	
評価損益等調整前当期経常増減額	-20,622,000	-20,493,000	-129,000	-12,672,690	-7,949,310	
評価損益等計			0		0	
当期経常増減額	-20,622,000	-20,493,000	-129,000	-12,672,690	-7,949,310	

一般社団法人 軽金属学会

単位:円

単位:円

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	2023年度実績	増 減
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計			0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計			0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-20,622,000	-20,493,000	-129,000	-12,672,690	-7,949,310
一般正味財産期首残高	79,383,450	79,300,301	83,149	79,300,301	83,149
一般正味財産期末残高	58,761,450	58,807,301	-45,851	66,627,611	-7,866,161
II 指定正味財産増減の部					
受取寄付金	0	0	0	0	0
国際会議積立金	0		0		0
特定資産運用益	0	0	0	8	-8
高橋記念賞基金預金利息	0	0	0	8	-8
国際会議積立金預金利息	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	27,000	27,000	0	37,478	-10,478
寄付金	27,000	27,000	0	37,478	-10,478
当期指定正味財産増減額	-27,000	-27,000	0	-37,470	10,470
指定正味財産期首残高	963,362	963,362	0	963,362	0
指定正味財産期末残高	936,362	936,362	0	925,892	10,470
III 正味財産期末残高	59,697,812	59,743,663	-45,851	67,553,503	-7,855,691

【第 5 号議案】(審議事項)

特別維持会員会費変更に関する件

現行会費:

維持会員のうち『1100 会員規程』において規定する特別維持会員(軽金属圧延 3 社:株式会社神戸製鋼所、日本軽金属株式会社、株式会社 UACJ)については、次に従って計算した額を負担する。

- (1)3 社の会費総額を年額 14,500 千円とする。
- (2)基本会費を各社 1,000 千円とし、残りの 11,500 千円を前年度の生産割合で比例配分する。生産割合は 3 社の生産量を適用し算出する。

改定会費:

維持会員のうち『1100 会員規程』において規定する特別維持会員(軽金属圧延 3 社:株式会社神戸製鋼所、日本軽金属株式会社、株式会社 UACJ)については、次に従って計算した額を負担する。

- (1)3 社の会費総額を年額 14,500 千円とする。
- (2)基本会費を各社 1,500 千円とし、残りの 10,000 千円を前年度の生産割合で比例配分する。生産割合は 3 社の生産量を適用し算出する。

改訂趣旨:

令和 5 年度より、特別維持会員が軽金属圧延である(株)UACJ、(株)神戸製鋼所、日本軽金属(株)の 3 社となった。現行会費は、特別維持会員会費総額を 14,500 千円とし、基本会費 1,000 千円、残りの 11,500 千円を前年度の生産割合で比例配分していた。しかし、3 社となり、財務委員会(特別維持会員)3 社で協議し、特別維持会員の総額は 14,500 千円を維持することとし、基本会費 1,500 千円とし、残りの 10,000 千円を前年度の生産割合で比例配分することで合意した。

【第 6 号議案】(審議事項)

2023 年・2024 年度役員の補充選任に関する件

新任役員候補	徳田健二	株式会社神戸製鋼所 鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 担当部長
--------	------	--------------------------------------

辞任役員	山本邦夫	株式会社神戸製鋼所 鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 担当部長
------	------	--------------------------------------